

<東秩父村立小・中学校あり方検討委員会答申書>

東秩父村立小中学校の適正なあり方について（答申）

2025年（令和7年）3月

東秩父村教育委員会

答申をまとめるにあたって

東秩父村教育委員会教育長 小林 洋介

東秩父村教育委員会は、小中学校の児童生徒にとって望ましい教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するため「小中学校の適正なあり方」について、村長から、令和4年5月24日に諮問を受けました。同年11月30日に東秩父村立小・中学校あり方検討委員会条例が制定され、その設置要綱に基づいて検討委員会を組織し、活動を開始しました。

東秩父村立小・中学校あり方検討委員会（以下「検討委員会」という。）は、答申をまとめるにあたって、結論ありきではなく委員各位に広く意見をいただき、よりよい在り方について協議を深めていただくことを基本姿勢に協議を進めました。そのため、教育委員会として持ちうる情報を委員の皆様提供するとともに、児童生徒、保護者、教職員、住民に対し学校のあり方に関するアンケートを実施し、協議の参考としました。

委員の退任や年度替わりの委員の交代等で、第1回の委員会開催から第2回の開催までに6ヶ月を要するなど順調に進めることはできませんでしたが、高橋守委員長のリーダーシップと委員各位のご協力により、ここに諮問に対する答申をまとめられました。委員長並びに委員各位に感謝申し上げます。

この答申どおりに事業を推進するには、多くの困難が推察されますが、こどもたちのために、未来の村民のために粘り強く推進されることをお願いし、ここに「東秩父村立小中学校の適正なあり方について」答申します。

目 次

1	はじめに.....	- 3 -
2	検討委員会の審議方法.....	- 5 -
3	審議を通しての結論と理由.....	- 6 -
	（1）結論	- 6 -
	（2）結論に至った主な理由.....	- 6 -
	（3）施設一体型の小中一貫校のメリット.....	- 7 -
4	結論に至った経緯	- 8 -
	（1）東秩父村の現状と課題.....	- 8 -
	（2）村立小中学校の現状と課題.....	- 9 -
	（3）アンケート調査による児童生徒・教職員・保護者・住民の意向把握.....	- 13 -
	（4）村立の小中一貫校としての今後の特色ある教育活動の推進.....	- 15 -
	（5）教育環境整備の充実.....	- 16 -
	（6）教育に関する国の動向や他市町村の取組.....	- 17 -
5	施設一体型小中一貫校推進計画について.....	- 21 -
6	おわりに.....	- 22 -
7	参考資料（東秩父村立小中学校あり方アンケート調査・集計結果）	- 24 -

1 はじめに

東秩父村教育委員会は、令和4年5月24日に村長より「東秩父村立小中学校の適正なあり方」について検討するよう諮問された。これを受け、同年11月30日に「東秩父村立小・中学校あり方検討委員会条例（条例第25号）」が制定され、その設置要綱に基づいて「東秩父村立小・中学校あり方検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を発足し、答申に向けた内容審議を進めてきた。村長からの諮問内容は以下のとおりである。

1 諮問事項

東秩父村立小中学校の適正なあり方について

2 諮問理由

全国的な少子化の進行の中、本村においても児童生徒数が減少し、望ましい教育環境を維持していくことが困難な状況となっている。第6次東秩父村総合振興計画においても「小中学校の適正配置の検討を行い、特色ある教育を提供する」とある。

今後の児童生徒数の推移や学校施設の老朽化を鑑み、村の未来を担う子どもたちのためによりよい教育環境を創設することを検討するため、検討委員会を設置して小中学校のあり方についてさまざまな方々からの意見を聞き、審議のうえ、答申するよう求める。

設置要綱には次の6区分で委員を委嘱するとされており、これに基づいて別紙（P.23：東秩父村立小・中学校あり方検討委員会委員一覧）のとおり、計11名の委員を委嘱し、答申に向けての審議をいただいた。

<委嘱区分>

- （1）学識経験等を有する者
- （2）保護者を代表する者
- （3）住民を代表する者
- （4）小・中学校長
- （5）教育委員会を代表する者
- （6）その他、教育委員会が必要と認める者

検討委員会は、令和4年11月21日に第1回検討委員会を開催し、審議計画を策定したのち、できるだけ定期的に答申に向けた審議を進めてきた。検討委員会の審議は、これまでに計11回開催して審議を深め、答申に向けた意見として一定の方向性をまとめるに至った。

この答申は、検討委員会が審議を通してまとめた内容を教育委員会の審議を経て、一定の結論として提出するものである。

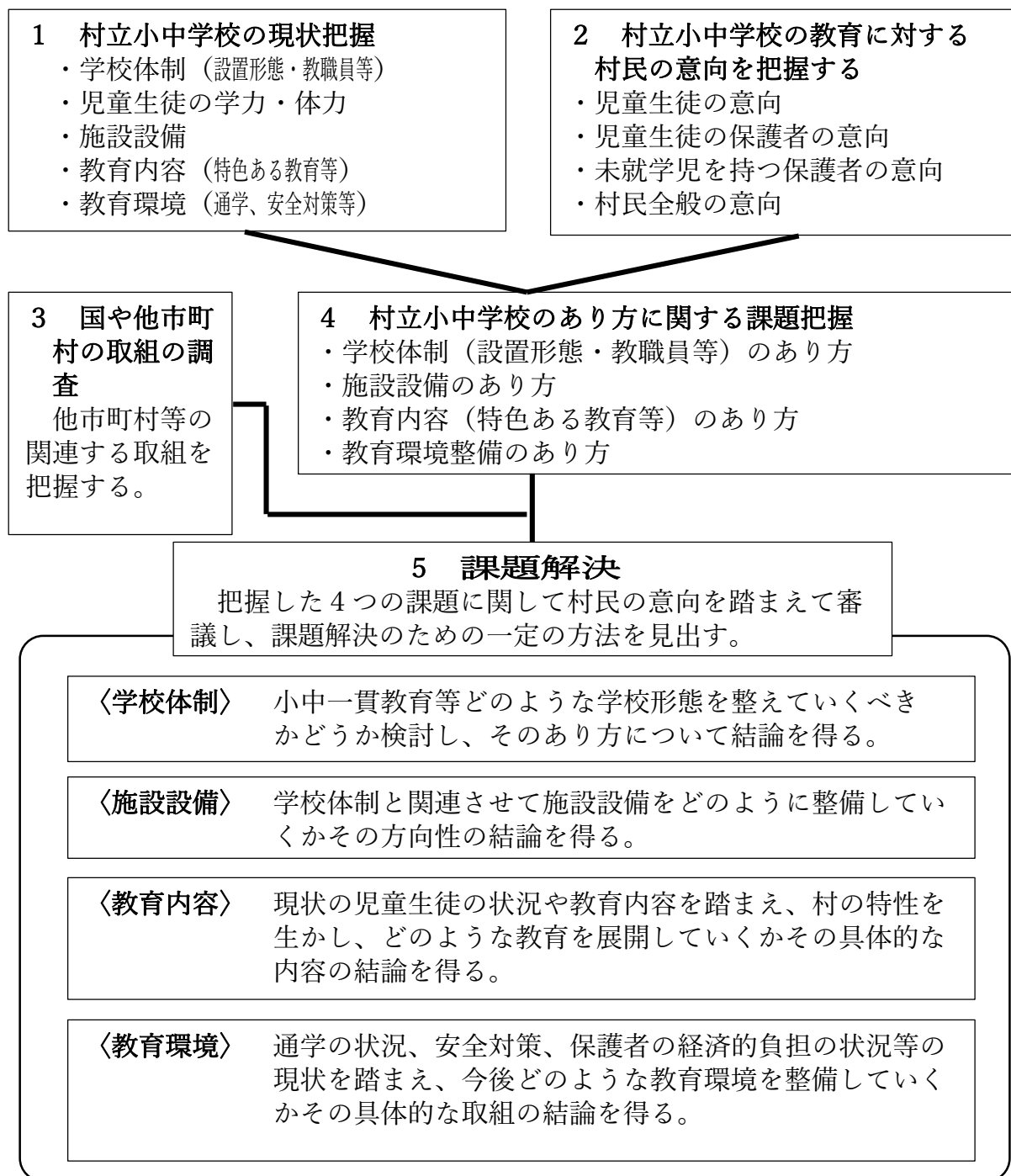
<検討委員会審議経過>

年	月 日 (曜)	項目	内容	備考
4	11月21日 (月)	第1回検討委員会	・委員長・副委員長の選任 ・本委員会の目的の確認 ・スケジュールの確認	
5	6月28日 (水)	第2回検討委員会	・審議スケジュールについて ・東秩父村の教育の現状について	
5	8月30日 (水)	第3回検討委員会	・アンケート調査について	
6	1月19日 (金)	第4回検討委員会	・アンケート調査の結果について	
6	2月29日 (木)	第5回検討委員会	・「課題の洗い出し・解決に向けての策について」の検討 ・今後のスケジュールについて	
6	5月30日 (木)	第6回検討委員会	・小中学校の学校体制の検討について	
6	7月12日 (金)	第7回検討委員会	・坂戸市立城山小中学校 視察 ①学校の概要説明 ②授業・施設見学 ③研究協議	
6	8月28日 (水)	第8回検討委員会	・城山小中学校の視察を終えての意見交換 ・小中学校の課題解決にむけての意見交換 ・学校の体制について方向性の確認	
6	9月17日 (火)	第9回検討委員会	・学校の体制について方向性の確認→施設一体型小中一貫校 ・「施設一体型小中一貫校」の課題整理メリットと課題の洗い出し	
6	11月 6日 (水)	第10回検討委員会	・小中一貫校を1校としたときの今後の課題 ・教育委員会としての特色ある教育施策の推進 ・小中一貫校へのスケジュールについて ・今後のスケジュールについて	
7	1月24日 (金)	第11回検討委員会	・答申書（素案）の内容審議 ・答申書（素案）の文言修正等	

2 検討委員会の審議方法

検討委員会では、その審議に当たって委員全員が審議の方向性の全体像を把握し、共通理解のもとに審議を進めていくことに重きを置いてきた。そこで、限られた時間の中で一定の結論を得るため、村の総合振興基本計画や国の指針、他市町村の取組事例等を参考に、おおよそ次のような計画で、諮問に対する答申をまとめるための意見の集約に取り組んだ。

<審議計画の流れ>



3 審議を通しての結論と理由

(1) 結論

1 学校の体制

- 現在ある槻川小学校、東秩父中学校を統合して東秩父村立の施設一体型小中一貫校とする。

2 学校施設・設備

- 現在ある東秩父中学校の施設は小中一貫校中学部の施設としてそのまま活用し、その敷地内に新たに小学部の校舎を建設して小中一貫校とする。なお、小学部の校舎等の建設に当たっては、国の定める小学生の教育に必要な施設設備を整える。

3 教育内容の充実

- 小中一貫教育推進に当たり、その利点が十分に生かせるように村の現状を踏まえて9年間の教育課程編成を行い、状況の変化に応じてその教育課程を絶えず見直しをしていくよう努める。

4 教育環境の整備

- 現在行っている児童・生徒及び保護者のための教育活動支援策をさらに充実できるよう継続、発展策を実行していく。
- 村立小中一貫校は村で1校の義務教育施設の学校となることを踏まえ、地域と連携した教育活動及び学校支援策をより一層充実させる。

5 小中一貫校開校の時期

- 村立の小中一貫校は、答申を行った後、諸準備を整え、できるだけ早い段階で開校できるように努める。

(2) 結論に至った主な理由

検討委員会の審議を通して上記の結論に至った。その主な理由は次のとおりである。

- ① 本村の児童生徒数は現在（令和6年度）小学生59名、中学生35名の合計94名であるが、今後毎年減少し、6年後の2030年度にはほぼ半減する見込みである。また、この傾向はその後も継続し、国立社会保障・人口問題研究所等の推計によると、2050年には小中学生合わせて30人程度にまで減少していくことが予想されている。そのため、本村の児童生徒が多くの人と接する中で育つ機会が少なくなり、これを解決するための方策として、児童生徒ができるだけ多くの人と関わる機会を生み出すために、小中学生が一緒に生活する場を設定していく必要がある。
- ② 本村は児童生徒数の減少等により、学校統合を重ね、現在小学校1校、中学校1校で運営を行っている。この両校は少人数のために生じる教育課題の解決やその他の教育課題を解決すべく、小中が連携した教育活動を推進し、その成果を上げてきている。しかし、学校がそれぞれ独立して離れた場所にあるため連携推進にはさまざまな困難があり、こ

これらの困難を解決してより小中が連携した教育活動を推進していくためには小中の施設を一体にして運営していくことが必要である。

- ③ 人口の減少は全国的なものであり、現在義務教育諸学校の設置義務のある市町村では、児童生徒数の減少に対応して学校の統廃合を進めていく傾向にある。これに合わせて小学1年生から中学3年生までの義務教育の段階9年間を一体としてとらえて教育していく小中一貫教育の国の施策も推進されており、現在、徐々に小中一貫校が設置されるようになってきている。小中一貫校にはそのメリット、デメリットがあるが、全国の実践事例から推察して、本村のような極小規模校ではメリットがデメリットを上回り、デメリットを補う方策を講じながら、小中一貫教育を推進していくことが適切である。
- ④ 教育委員会の行った本村の児童生徒や保護者・住民を対象としたアンケートの結果からも、児童生徒及び多くの住民が小中一貫教育の必要性を認識しており、小学生は70.5%、中学生は84.0%が小中一貫校になることを望んでいる。その形態としては施設分離型、施設一体型の小中一貫校があるが、住民の約40%はいずれかの小中一貫校を望んでいる結果となっている。その他は現状のままで小中連携を図って行く方法、複合施設として小学校、中学校をそれぞれ運営していく方法やその他（他市町村との連携や分からないという回答）がほぼ同数の状況であったが、全体として小中一貫教育をさらに推進していくことの必要性がうかがえる。
- ⑤ 小中一貫教育の推進には、2016年の学教教育法の一部改正により市町村で設置が可能となった9年間の小中一貫教育を推進する「義務教育学校」があるが、「義務教育学校」の教員は原則として小学校と中学校の教員免許を有する者（当分の間例外あり）とされており、現状、教員養成の社会情勢が追いつかず、両方の免許を有する者が少なく、教員の人事異動の面で課題がある。そのため、当村では、当面は「義務教育学校」とほぼ同等の教育活動を推進できる施設一体型の小中一貫校としてスタートし、社会情勢が整った段階で「義務教育学校」へ移行していく方法がよい。

（3）施設一体型の小中一貫校のメリット

村内の小中学校を施設一体型の小中一貫校にすることで次のようなメリットが考えられる。

- ① 小学校、中学校が一体となっているため、小中一貫教育推進のための会議等を実施しやすくなる。
- ② 施設が一体となっているため、小中学生の交流の場が設定しやすくなる。
- ③ 施設が一体となっているため、9年間の教育課程編成に向けた会議を持ちやすくなり、小中一貫教育をさらに推進しやすくなる。
- ④ 施設が一体となっているため、小中学校の教員の相互交流の授業を実施しやすくなる。
- ⑤ 施設が一体となっているため、中学校の部活動に小学生が参加できる場を設定できる
- ⑥ 施設が一体となっているため、小学校、中学校の教職員が一緒になって小中学生の指導に関わることができる。
- ⑦ 施設が一体となっているため、学校行事等、小中学生が一体となった形で実施しやすくなる。

- ⑧ 施設が一体であるため、児童会、生徒会を一体の組織として設定し、運営していくことが可能となる。
- ⑨ 施設が一体であるため、PTA 組織など小中一緒になった一つの組織として運営しやすい。
- ⑩ 小学校、中学校の施設を一体にすることで、建設当初の経費はかかるものの、その後は一施設の運営となり、予算を削減することができる。

4 結論に至った経緯

(1) 東秩父村の現状と課題

東秩父村は人口が 2,445 人、世帯数 1,054（令和 6 年 4 月 1 日時点）、総面積は 37.06 km²（東西 7.7 km、南北 10.5 km）の埼玉県西部の山間部に位置する県内唯一の村である。豊かな自然に恵まれ、隣接する小川町と共に「和紙の里ひがしちちぶ」として 1300 年の歴史を持つ手漉き和紙の伝統を守り続けているなど伝統文化の息づく村である。しかしながら、全国的な傾向である少子高齢化による人口減の波は当村にも押し寄せている。下表に示すように、国立社会保障・人口問題研究所の調査データによると、当村の人口は今後年々減少していく傾向にあり、2045 年には半減してしまう状況にある。比企地区の市町村の人口の状況では、唯一人口が増加していく傾向にある滑川町を除くと、いずれも今後減少していく状況にあり、中でも当村の減少率が一番大きくなっている。この傾向を踏まえると、今後、近隣市町との関わりを含めて地域の産業、文化の育成、村民の生活改善等、人口減の伴うさまざまな課題の解決が求められる状況にある。

比企地区市町村別人口推移

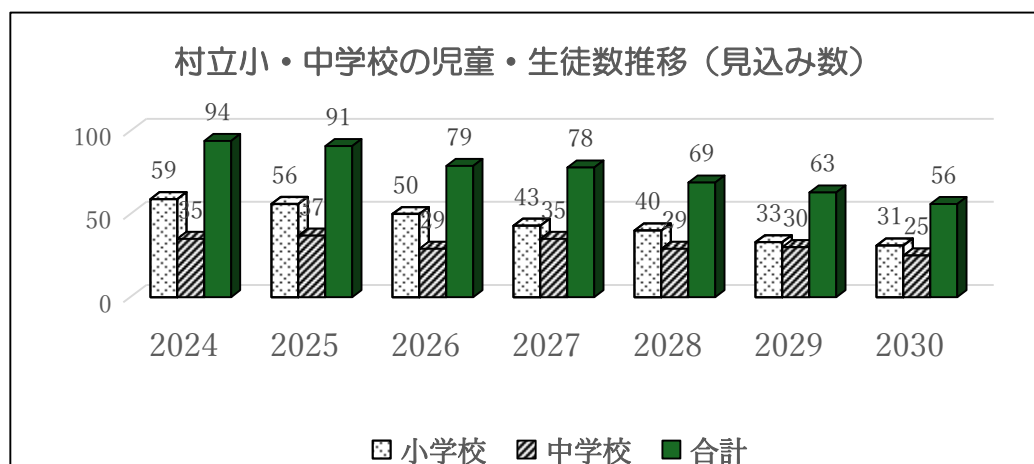
市町村名・年	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
東秩父村	2,709	2,379	2,103	1,833	1,576	1,335	1,105
東松山市	91,791	90,946	89,230	86,895	84,154	81,337	78,779
滑川町	19,732	19,998	20,785	21,356	21,712	21,874	21,904
嵐山町	17,889	17,184	16,392	15,487	14,525	13,572	12,674
小川町	28,524	26,221	23,853	21,418	18,922	16,486	14,269
ときがわ町	10,540	9,729	8,939	8,101	7,219	6,353	5,535
鳩山町	13,560	12,597	11,557	10,471	9,337	8,233	7,290
川島町	19,378	18,154	16,788	15,338	13,839	12,360	11,022
吉見町	18,192	16,857	15,519	14,084	12,581	11,071	9,671

* 「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づいて作成

(2) 村立小中学校の現状と課題

<児童・生徒数の現状と課題>

令和6年5月1日現在の槻川小学校の児童数は59名、東秩父中学校の生徒数は35名である。下図に示すように、人口減に伴ってこの数は年々減少していく傾向にあり、2030年には小中学生合わせても56名で、現在の半数近くになる見込みである。



*「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づいて作成

また、小中学校の学級数は法令により児童・生徒数に基づいて編成されるため、特に小学校では下表に示すように令和7年度には2、3年生が複式学級編成になり、令和10年度には小学校全学年が複式学級編成になる見込みである。なお、中学校は学級編成基準により各学年少人数の1学級編成が続いていく。これらの状況は教育活動を推進していく上で多くの課題を含んでおり、対応が必要である。

村立小中学校年齢別児童生徒数推移（網掛けは複式学級編成）* 令和6年5月1日現在

学 校 名		槻川小学校						東秩父中学校			小学校	中学校	小中学校
		7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	合計	合計	合計
年 度	年 齢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	(人)	(人)	(人)
令和6年度	児童生徒数	5	11	7	11	10	12	4	16	11	59	35	94
2024年度	特別支援		1	0	0	1	1	1	3	0			
令和7年度	児童生徒数	8	5	11	7	11	10	12	4	16	54	37	91
2025年度	特別支援			1	0	0	1	1	1	3			
令和8年度	児童生徒数	7	8	5	11	7	11	10	12	4	50	29	79
2026年度	特別支援				1	0	0	1	1	1			
令和9年度	児童生徒数	4	3	8	5	11	7	11	10	12	43	35	78
2027年度	特別支援					1	0	0	1	1			
令和10年度	児童生徒数	4	4	3	8	5	11	7	11	10	40	29	69
2028年度	特別支援						1	0	0	1			
令和11年度	児童生徒数	5	4	4	7	8	5	11	7	11	33	30	63
2029年度	特別支援							1	0	0			
令和12年度	児童生徒数	3	5	4	4	7	8	5	12	7	31	25	56
2030年度	特別支援							0	1	0			

<児童・生徒の通学の現状と課題>

現在、児童の通学は原則として、東地区（安戸・御堂・奥沢）は徒歩通学、西地区（坂本・大内沢・皆谷・白石）はバス通学である。これまでの小学校2校の統廃合によりこの形の通学方法となり、今日まで特に大きな通学上の支障はなく推移してきた。しかし、児童生徒数の減少に伴い、令和6年度現在で、小学生が10人以上いる地区は安戸、御堂、坂本の3地区で、中学生が10人以上いる地区は坂本のみになっており、他の地区は10人以下である。少ない人数での通学は時に一人で通学する機会が生じたりするなど、防犯上の課題も生じ、大人の目の見守りなど安全対策の工夫が必要である。

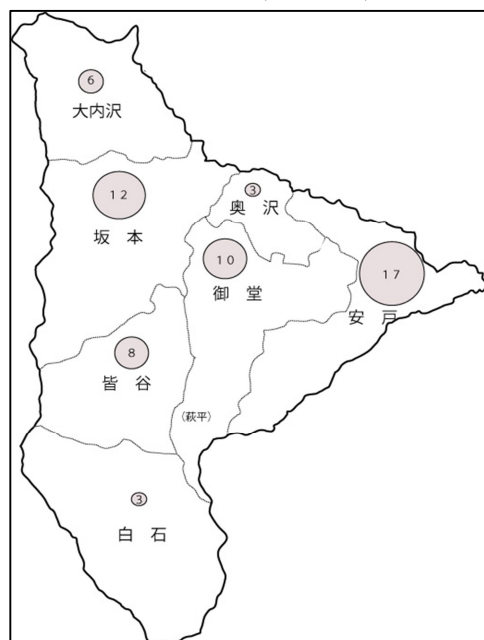
また、通学距離に関しては、徒歩通学する児童生徒の最長距離は安戸地区の2～3kmであるが、現在の東秩父中学校に小中一貫校を開設すると1km程徒歩通学の距離が長くなって4km近く歩くことになり、小学校低学年の児童に関しては何らかの手立てが必要である。

地区別児童生徒数

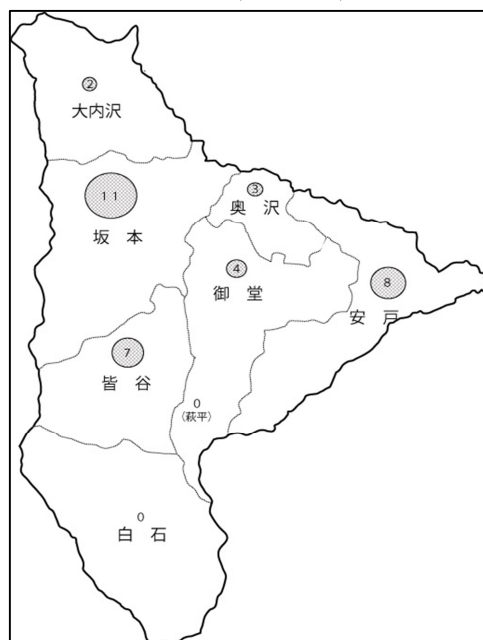
* 令和6年5月1日現在

地区名	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	中計	総計
安戸	1	2	3	3	4	4	17	1	5	2	8	25
御堂	3	2			1	4	10		4		4	14
奥沢	1			2			3		1	2	3	6
坂本		4	1	5	1	1	12	3	3	5	11	23
大内沢		2	2		1	1	6		2		2	8
皆谷		2	1	1	3	1	8	1	4	2	7	15
白石					1	2	3				0	3
合計	5	12	7	11	11	13	59	5	19	11	35	94

地区別児童数（小学生）図



地区別生徒数（中学生）図



＜小中学校の施設設備の現状と課題＞

村立の小学校は平成25年に東小と西小を統合し、東小学校の校舎を活用して槻川小学校を開校し、小学校1校となった。その学校施設は、平成26年にプールの改修やエアコンの設置、平成30年にはLED照明工事が行なわれ、校舎内は明るくなり、また木質化したため内装はとてもきれいな状態にある。しかし校舎そのものは42年経過している。

村立の中学校は、昭和50年に東中学校と西中学校を統合し、新築した東秩父中学校を開校し、中学校1校となった。その学校施設は、平成25年に校舎内が木質化され、平成26年にエアコンの設置、体育館の床張り替え、平成29年からは、校舎・体育館の外壁の改修、令和4年には、LED照明工事が行われ、小学校と同様に校舎内は明るく、とてもきれいな状態にある。しかし、校舎そのものは49年経過している。

校舎そのものの築年数からすると、小学校、中学校とも大規模な改修を必要とする時期にあり、新しい時代の教育に対応する観点からも、今後の学校のあり方とも関連させて、早期に改修整備していく必要がある。

＜児童・生徒の学力の現状と課題＞

学力を国や県で行っている学力調査等の観点で見ると、本村の児童・生徒は比較的よい傾向にあると言える。

令和4年度の埼玉県学力学習状況調査結果では、平均点で比較すると、半数の学年で県平均を超えており、平均を8.2点も上回る学年もある。学力の伸びで比較すると、すべての教科で順調に学力が伸びている。各教科の観点別に見ると、県平均を超えているものもあれば、平均を下回っているものもある。中学校の英語に関しては半数以上の観点で平均を上回っている状況にあり、よい傾向にある。

また、国語、算数・数学、理科の4教科で小学校第6学年と中学校第3学年を対象に実施された令和4年度の全国学力学習状況調査結果では、全体として全国・県平均と同等の状況にあるといえるが、小学校第6学年よりも中学校第3学年の方がよい結果になっている。各教科の観点別に見ると、埼玉県学力調査学習状況調査の結果同様、平均を超えているものもあれば、平均を下回っているものもある。特徴としては国語の「読む」「書く」、算数・数学の「図形」の学習に関しては課題がある傾向にあり、今後、これらの課題を克服し、少人数の学校の特色を生かして、さらなる学力の向上を目指していく必要がある。

文部科学省が示す学習指導要領はおよそ10年ごとに改訂が行われており、現在、中央教育審議会の「学校教育のあり方特別部会」で2030年全面実施を目標に次期学習指導要領改訂の検討に入る計画が進められている。AIの普及や少子化など教育を取り巻く環境が大きく変わるこれからの時代の学力観を想定するとともに「読む」「書く」といった基本的な学習の重要性にも十分に目を向け、対話を重視した学びや「何を学ぶか」だけでなく「何ができるようになるか」といったことに、よりいっそう重点を置いた学力向上策を検討していく必要がある。

＜児童生徒の体力の現状と課題＞

令和4年度の新体力テストの結果から、子どもたちの体力について見ていくと、小学校では、握力からボール投げまで8項目あるテスト結果で、1年生から6年生まで男女合わせて78%の項目が県平均を超えており、全県でもトップクラスの成績といえる。

中学校では、握力からボール投げまでの8項目のうち3学年男女合わせて54%の項目が県平均を超えている。特に、女子は24項目中20項目で県平均を超えており、全県でもトップクラスの成績である。これらの結果は、授業での運動量アップ、集団走、補強運動を継続している成果であるといえる。

しかし、全体的に大変よい結果を示している本村の児童生徒の体力は、特に男子において小学生から中学生へと成長して行くにつれて低下していく傾向が見られる。学校ではこれらの状況に対応すべく、授業での運動量70%を掲げ、集団走、補助運動の継続、柔軟性の向上に向けた取組などを行っているが、中学生男子の低下傾向は生徒数が少ないということが大きな要因になっていると考えられる。児童生徒の体力向上は、スポーツ少年団への所属や運動部活動への所属数とも大きく関連しており、少人数によるさまざまな部活動設定の困難さが、体力が急激に伸びていく中学生の時期に影響を与えているようである。

そのため、児童生徒の体力向上はこれまで同様学校での指導の継続と合わせて、地域社会全体でのスポーツ振興策と関係づけて取り組んでいく必要がある。

<生徒指導の現状と課題>

国では毎年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を行っており、当村の小中学校もこれに対応して実態調査を行っているが、令和5年度の調査では、小学校で問題行動やいじめの認知件数が数件あったが、年度内にすべて解決している。また、不登校については0件であった。中学校では、問題行動やいじめの認知件数は0件で、不登校については数件あり、生徒の心情に寄り添い、学習の機会の保障に向けて管理職を含めて担任や相談員等の教職員が丁寧な対応を継続している。

小学校、中学校とも小人数であるため、教職員の目がよく行き届き、児童生徒との良好な関係が維持されており、当村の学校は生徒指導上の問題は他校と比較して非常に低い発生率が維持されている。

少人数であるために教職員の目が児童生徒に向きすぎて、生徒の自律や自主性・主体性の育成等、「積極的な生徒指導」の面で特に配慮した取組が必要である。

<特色ある教育活動の現状と課題>

現在、村立の小学校、中学校はそれぞれ1校であり、いずれも少人数の学校である。そのため、学校ではこの特長を生かして次のような特色ある教育活動に取り組んでいる。

○保育園、小学校、中学校と連携した教育活動の推進

村内の子育てに関わる施設が互いに協力して教育活動を推進している。特に、小学校と中学校は、小中合同の教育活動や教職員の相互交流等の場を設定し、小中一貫教育を目指した協議を推進している。

○地域と連携した教育活動の推進

村内には、豊かな自然、貴重な文化遺産や伝統芸能があり、これらは教育資源としても重要な役割を果たしている。この認識のもとに学校では、地域の方々を外部指導者として招へいする「ふるさと講座」や児童生徒が地域に出向いて学習する「地域学習」、あるいは地域活動への参画や地域への貢献活動等に積極的に取り組んでいる。

○ICTを活用した教育活動の推進

国のGIGA（ギガ）スクール構想の推進を受けて、村教育委員会の取組により児童生徒が一人1台パソコンを活用できる体制が整備されており、この状況を生かしてICT教育を推進している。

○小学校1年生からの英語教育の推進

現行の学習指導要領では、外国語活動として小学校3年生から「英語の特徴等に関する事項」の学習が位置づけられているが、当村では小人数の特長を生かし、小学生がALTと関わる機会を生み出すなど、小学校1年生から英語教育を実施している。

これらの取組は児童生徒や保護者からも好評で、一定の成果を上げてきているが、さらなる成果を上げていくために、教材化できる地域の自然や文化遺産などの調査や外部指導者の発掘、指導時間の確保等、さまざまな課題がある。また、パソコンを活用した教育活動については児童生徒の成長発達に関してマイナス面の課題への配慮の声もあり、今後指導方法の検討が必要である。

1年生からの英語教育に関しては、指導方法の工夫改善の継続と共に長期的な視点でその成果を検証していく取組も必要である。

<教職員の現状と課題>

教職員の人数は、基本的に法令に基づいて児童、生徒数（学級数）に応じて配置される。そのため、小規模になるほど教職員数が少なくなり、児童生徒が多様な人材に触れる機会も減少する。特に教科担当制の中学校では各教科の教員を常勤として確保することが難しくなり、非常勤職員が対応せざるを得ない教科も生じてくる。

令和6年度では県費負担教職員の配置は小学校で14名、中学校では16名となっているが、現在当村では、これに加えて教科支援員として小学校に4名、中学校に3名の職員を配置し、児童・生徒の学習支援などを行っている。また、英語指導員（ALT）を1名配置し、小学校に週2日、中学校に週3日派遣し、外国語活動や外国語の指導補助を行っている。

児童生徒数がさらに減少していく傾向にある中で、児童・生徒の一人一人へのきめ細やかな指導を継続していくためにもこのような村独自の教職員の配置は今後も継続していく必要がある。また、小学校と中学校を一体化して、小中学校の教職員全員で、児童生徒をサポートしていく体制づくりも必要である。

（3）アンケート調査による児童生徒・教職員・保護者・住民の意向把握

村教育委員会では、令和5年に、児童生徒、教職員、村民・保護者を対象に小中学校のあり方に関連してアンケート調査を行った。

アンケートの内容は、児童生徒に関しては、現在の学校生活及び小学生と中学生と一緒に生活をする「小中一貫校」についての考えを問うものであり、教職員、村民・保護者に関しては、現在、村教育委員会及び学校が取り組んでいる特色ある教育施策等に関する考え及び小中一貫校を含めた今後の学校のあり方を問うものであった。

アンケート結果の概要は以下のとおりである。

(別紙：「東秩父村立小中学校のあり方についてのアンケート結果」参照)

<学校生活に関して>

全体的に見ると、児童生徒は少人数という学校の特性にうまく適応し、学校生活が楽しいと感じたり、学習に前向きに取り組んだりしている。しかし、少人数であるが、不適応を示す児童生徒も見られる。

<特色ある教育施策に関して>

「給食費無償の取組」に関しては保護者の90%、教職員の80%、村民の75%がよい施策であり継続を望んでいる。しかし、村民の一部には廃止や全額でなく一部負担を望む声もある。

「地域との連携を図る学校教育の取組」に関しては村民の96%、教職員、保護者の70%近くが継続を望んでいる。しかし、取組がよく分かるような広報活動を進めてほしいという声も多くある。

「パソコンの導入と活用」に関しては教職員の73%、保護者の70%が継続を望んでいるが、村民は継続を望む声が43%で、教科書・ノートの活用と併用していくことを望む声が48%である。

「小学校1年生からの英語教育」に関しては、教職員、保護者、村民ともに今後の継続、充実を望んでいるという結果であった。

<学校の体制に関して>

学校の体制について、小学生がほぼ7割、中学生は8割強が、小中一貫校に対して肯定的にとらえている。教職員は、小中の連携は重要であるという認識の中で、現在行っている小中連携校を推進していくという考えが多く、次いで施設分離型の小中一貫校、その次が施設一体型の小中一貫校の体制を選択している。施設一体型と施設分離型の小中一貫校を合わせると、小中連携校を選択した者とほぼ同程度の数になるが、特に中学校では施設一体型の小中一貫校を選択した割合は少ない。

保護者と住民のアンケート結果は全体として、施設一体型の小中一貫校、施設分離型の小中一貫校、小中連携校のそれぞれの選択がほぼ同程度になっている。これは選択肢の中から「2つまで選んでください」という設問の影響による結果とも考えられるが、全体としては小中一貫ないし連携して教育活動が展開されることを望んでいるという結果になっている。

なお、このアンケートにはそれぞれの設問に関してその他の自由記述の欄があり、そこには教職員、保護者、村民からさまざまな視点で個別具体的な意見が寄せられていた。今後の村の教育行政推進に当たってはこれらの意見にも十分に耳を傾けて検討を進めていくことが必要である。

(4) 村立の小中一貫校としての今後の特色ある教育活動の推進

現在も小学校、中学校が連携して小中一貫教育を目指した取組を行っているが、今後の学校のあり方として正式に「小中一貫教育校」を開設していく場合には、村で1校の学校ということになり、その学校をどのような学校にしていくかという基本方針を検討し、決定していくことが必要である。そしてその方針のもとに、小学校1年生から9年生までの9年間の教育課程を編成する必要がある。

9年間の教育課程編成に当たっては、これまで検討してきた本村に児童生徒の実態を踏まえ、今後の教育の流れを展望して以下の点に留意した検討が必要である。

① 9年間の教育課程を編成する中で児童生徒の学力向上策を検討する。

埼玉県学力学習状況調査や全国学力学習状況調査の結果から見ると、本村の児童生徒は県平均と比較してそれを若干上回る程で推移し、順調に学力が伸びている状況にあると言える。しかし、細かい観点別に見ると、平均に達しない項目もあり、さらなる学力向上のために9年間の教育課程を編成していく中で、教育指導上のさらなる創意工夫が必要である。

そこで、少人数の状況を生かし、次の点に特に重点を置いた教育課程を編成し、教育指導を推進していく。

- 児童生徒が自分の学習目標を設定し、学年を追って継続的に学習に取り組むことができるようにする。

(具体例として)

- ・英語検定、数学検定、漢字検定など民間の各種協会が実施している検定を積極的に取り入れ、児童生徒が学習の目標となる場を生み出す。その際、費用は少人数を生かして公費でまかなう。

- 読み聞かせ・課題図書・利用しやすい図書館などを工夫して児童生徒が読書をする習慣を形成し、読書量を増やす場を設定する。

(具体例として)

- ・児童生徒が自分の記録として保存できる「読書ノート」を創意工夫して作成し、村の特色ある教育活動の一つとして保護者の協力も得て記録する取組ができるようにする。
- ・児童生徒の児童の知識の蓄積、思考力、判断力の育成及び豊かな心の育成に繋がる図書を課題図書として選定し、9年間の教育課程を通して本を読む場を設定する。

- 図書館司書の配置や村の図書館との連携など、少人数を生かした図書館利用の場を工夫する。

* パソコン、携帯等の電子機器が普及、拡大する社会にあって、児童生徒の読書離れが進行している。これらが児童生徒の思考力、言語活用能力等にマイナスに影響するという指摘もされており、情報機器の活用能力を高めていく一方で、成長期にある児童生徒の心の育成及び言語活用能力の向上のための読書活動の推進はこれからの時代の重要な要素となる。

② 9年間の教育課程を編成する中で児童生徒の体力向上策を検討する。

児童生徒の新体力テストの成績結果から、本村の児童生徒の体力は全県でもトップクラスの状況にあるといえる。しかし、中学生になると県平均に比較してやや劣る種目も出てきており、授業を通して運動量アップに取り組んできているものの、少人数のために成長期の生徒が競い合って運動に取り組む機会が少なくなることの影響と思われる課題も生じている。そのため、9年間の教育課程編成の中で、体力向上に向けた方策を検討していく必要がある。

(具体例として)

- ・小学生が中学部の部活動への参加できる体制をつくる。
- ・縄跳び、バドミントン、卓球など、個人または少人数で取り組めるスポーツ奨励策を検討し、学校を挙げて取り組む体制をつくる。

③ 9年間の教育課程を編成する中で児童生徒の豊かな心の育成策を検討する。

現在の小学校、中学校とも少人数であることから児童生徒同士の関わり合いが密であり、また教職員との関わりも密になっていることから生徒指導上の問題行動は非常に少ない状況で推移している。小中一貫校になっても少人数の学校である状況は今後も継続していく見通しであり、この利点を生かしながらも児童生徒の自己存在感を高める工夫や共感的な人間関係を醸成する工夫等の積極的生徒指導の推進計画や体験的な場を通しての豊かな心の育成を図る計画を検討していくことが重要である。

- 積極的な生徒指導の視点で小学生、中学生が一緒に学校生活することを想定して学校生活ルールを見直す。
- 9年間の成長を見通して学校行事等の体験活動を見直し、体験活動を積み上げていく場を設定する。
- 読書活動の推進（「学力向上策」に関連させて再掲）
- 地域との連携を図る計画の推進

(具体例として)

- ・学校の体育祭とスポーツフェスティバルの一体化
- ・地域の文化事業への学校の参加
- ・地域の自然の状況を明らかにし、その状況を村民に伝える活動
- ・地域の自然の保護活動
- ・地域の文化の調査・継承活動
- ・地域の歴史調査と地域の未来を描く活動

(5) 教育環境整備の充実

ここでは教育環境として特に児童生徒の保護者を対象として村が行っている特色ある教育支援策について言及する。

東秩父村教育委員会は、現在支援事業として次の教育行政施策を推進している。

- ① 給食費の無償化（小中学生対象）
- ② 卒業アルバム代の全額補助（小中学生対象）
- ③ 修学旅行費の一部補助（中学生対象）
- ④ 校外行事に係る自動車借上料の全額補助
- ⑤ 新入学時ヘルメット購入費の一部補助（小学生対象）
- ⑥ 所得額等応じた就学援助制度による補助
- ⑦ 特別支援教育就学奨励費（特別支援学級及び通級指導教室に通う児童生徒が対象）
- ⑧ 西地区児童の通学バス定期券補助

これらは保護者への支援事業として好評であり、小中一貫校になっても継続し、さらに発展させていくことが望ましいと考えられる。

小中一貫教育校になった場合に、この他にも必要な教育支援に関わる行政施策を検討する。

(具体例として)

- ・学童保育、保育園を小中一貫校に隣接した形で開設する。(保護者の送迎を効率化するため)
- ・学校施設設備の地域開放を推進する。
- ・地域を挙げての児童生徒見守り活動を推進する。

(6) 教育に関する国の動向や他市町村の取組

<小中一貫教育にかかる国の動向>

中央教育審議会は、これからの義務教育あり方についての諮問を受け、平成17年に「新しい時代の義務教育を創造する(答申)」と題した答申書をまとめた。

答申では、当世が変革、混迷、国際競争の時代にあって、一人一人の国民の人格形成及び国家社会の形成者の育成としての義務教育の重要性を踏まえ、学ぶ意欲や生活習慣の未確立、後を絶たない問題行動などへ、的確に対処できる学校の教育力を高めることが指摘された。さらに、義務教育の中心的な担い手は学校であり、その設置者となる国、都道府県、市町村が協力して学校を支える基盤整備が重要であるとの指摘もなされた。

これを受け、平成18年に教育基本法が改正され、さらに平成19年には学校教育法が改正されて、小中学校共通の義務教育の目的・目標規定が新設された。続く平成20年に新たな学習指導要領が告示され、小中学校の教職員が連携して義務教育9年間の教育活動ができるよう、小学校、中学校それぞれの学習指導要領の内容を一冊に掲載して、教職員が小中の指導内容を把握できるようにする工夫がなされた。これにより、小中学校が共に義務教育段階の児童生徒の教育において系統性、連続性に配慮した取組を推進する機運が高まり、高齢化や人口減に伴う児童生徒数の減少や児童生徒の発達の早期化、新しい環境への不適應など、地域の持つ教育課題解決にも取り組む小中一貫教育を推進する取組も増加していった。

こうした背景を踏まえて、平成26年に文部科学大臣より中央教育審議会に対して「子どもの発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について」の諮問がなされ、中央教育審議会は、小中一貫教育に関わる事項について専門的な審議を深めるために「小中一貫教育特別部会」を設置し審議を深めた。この審議結果は同年12月には答申としてまとめられ、これにより小中一貫教育の制度化の方向の提言がなされた。

国はこの答申を受け、平成27年に学校教育法の一部を改正し、平成28年4月1日より施行して小中一貫教育が国の制度として推進されることとなった。この改正では、学校教育法に規定されたこれまでの学校種に新たに9年間の義務教育を一貫して行う「義務教育学校」が加えられ、学校を設置する市区町村でも、教育上有益かつ適切であると認められるときには小学校及び中学校の設置に代えて義務教育学校を設置できることとなった。

＜小中一貫教育制度の概要＞

制度化された小中一貫教育の形態は大別すると次の２種類になる。また、いずれの場合も教育課程のあり方、学年段階間の区切り方、施設の形態等、地域の実情に即した形が選べるようになっている。

【義務教育学校】

一人の校長の下、１つの教職員組織が置かれ、義務教育９年間の学校教育目標を設定し、９年間の系統性を生かした教育課程を編成・実施する新たな学校で、心身の発達に応じ、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して学習させることが学校の目的になっている。

① 前期６年と後期３年の課程区分

基本的には、小学校と中学校の学習指導要領が準用される。その上で、一貫教育の軸となる新しい教科の創設や学年・学校段階間での指導内容の入れ替えなどができる。

② 柔軟な学年段階の区切り

９年間の課程が、前期６年、後期３年に区分されているが、１年生から９年生までの児童生徒が１つの学校に通う特質を生かし、「４-３-２制」や「５-４制」などの区切りが柔軟に設定できる。

③ 教員の免許状

小学校及び中学校の教諭の免許状の両方を併有することが基本である。

④ 設置基準

前期は小学校設置基準、後期は中学校設置基準を準用する。

【小中一貫型の小学校・中学校】

既存の小学校と中学校の基本的な枠組はそのまま、９年間の教育目標を設定し、９年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校で、中学校区でこれまでの連携型小中一貫教育を基盤とした一貫校である。この場合、小中一貫教育を行うための運営上の仕組みを整えることが要件となる。

① 具体的な要件

- ・小中学校を一体的にマネジメントする組織を設ける。
学校の名前を新しくするのか、学園にするのかを工夫する。
- ・小中学校間の代表者(校長)を決め、必要な権限を教育委員会が委任する。
- ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を小中学校合同で開催する。
- ・小中学校の全教職員を併任させる。

免許状を併有しなくても、併任することは可能である。

② 課程区分や学年段階の区切り

義務教育にすべて準ずる。

③ 教員の免許状

所属する学校の免許状を保有していればよい。

④ 設置基準

小学校は小学校設置基準、中学校は中学校設置基準を準用する。

<近隣の小中一貫教育の取組事例>

【坂戸市の取組】

平成27年4月に、県内初の施設一体型小中一貫教育校「城山学園」が坂戸市に誕生した。城山小学校が城山中学校の敷地内に移転し、小中一貫教育がスタートした。9学年を1年生から9年生へと名前を変え、1年生から4年生までをⅠ期、5年生から7年生までをⅡ期、8年生・9年生をⅢ期として、「6-3制」を「4-3-2制」と改めた。

Ⅰ期は、「繰り返しの学びで基礎・基本を徹底的に学ぶ」ことを目標に学級担任制、45分授業で、4年生がⅠ期のリーダーとなり、縦割り活動を行うなど、中心的な役割をして楽しく活動している。

Ⅱ期は、「基礎・基本を生かして意欲的に学ぶ」ことを目標に、5・6年生は、学級担任制と一部教科担任制を併用し、教科によっては中学校の教員が専科で授業を行っている。また、児童会と生徒会を一本化し、5年生以上の児童生徒で委員会活動を行い、生徒会活動の中心は中学生が運営している。5年生・6年生のリーダーシップを発揮する機会は多少減るが、それよりも中学生と一緒に活動することが多くなるので、成長が著しくなる。さらに、5年生からは部活動にも参加し、中学生と同じジャージを着用している。

Ⅲ期は、「基礎・基本を応用して主体的に学ぶ」ことを目標に、学園全体のリーダーとして活動している。前期のリーダーは9年生が中心となり、後期は8年生が中心となって活動している。

一方で、学校行事は小中一緒に行うことが多い。入学式から始まり、運動会、文化祭、音楽祭、朝会なども一緒に行い、異年齢の交流活動を通して、豊かな心を育てている。

さらに、教職員に兼務発令をして、小中の児童生徒をサポートする体制を整えている。特に、5・6年生には、中学校の教員が専科として、音楽や理科などの授業を行っている。また、その教科以外の中学校の教員も積極的に小学校の授業に参加し、より専門的な立場で授業を構成しているので、学力の向上にもつながっている。

小中一貫教育への満足度は、児童生徒が95%、保護者が84%であり、小学校から中学校にスムーズに入学することができ、中一ギャップの軽減にもつながっている。

【日高市の取組】

日高市はコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を目指し、日高市小中学校未来構想「目指そう！気は優しくて力持ち」、日高市教育ビジョン「自らの力と人との絆で未来をつくる日高の教育」として、地域の特色を生かした小中一貫教育を推進している。

日高市は小中一貫教育を市内全校で進めていくことから、小中一貫教育を支える基盤とするため市内6地区すべての小中学校校区で一つの学校運営協議会を設置した。そして、令和5年度に義務教育学校「日高市立武蔵台小中学校」、令和6年度に義務教育学校「日高市立高根小中学校」、令和7年度に義務教育学校「日高市立高麗小中学校」、令和7年度に

小中一貫教育校「日高市立高萩小学校・高萩中学校」（隣接型）・小中一貫教育校「日高市立高麗川小学校・高麗川中学校」（分離型）・小中一貫教育校「日高市立高萩北小学校・高萩北中学校」（分離型）を順次開校する。令和５年度は、義務教育学校「武蔵台小中学校」が開校した。

主な特色は、小学１年生から４年生を「第Ⅰ期 学びの基礎期」、小学５年生から中学１年生を「第Ⅱ期 学びの充実期」、中学２年生から３年生を「第Ⅲ期 学びの発展期」とし、「４－３－２制」を採用することとした。中でも第Ⅱ期は、小中一貫教育の一番の重点期で、第Ⅰ期で身につけた学びを使って課題を解決することを通してその定着を一層図れることが報告されている。小学５年生から中学１年生の３年間を一つのまとまりにすることで、定期的に子供たちの基礎・基本の定着状況を確認し、必要に応じて学び直しを可能とした。

- 一部教科担任制の導入
- 小中学校教員による相互乗り入れ授業
- 小学生と中学生とのさまざまな交流活動
- 「ふるさと科」を新設…郷土を愛する心と世界で活躍する人材の育成を目指して、新しい科目に取り組んでいる。

【川島町の取組】

平成２８年２月に「川島町立小学校規模適正化計画」（以下「計画」）を策定し、段階的な統合として、小規模化した４つの小学校（三保谷小・出丸小・ハッ保小・小見野小）を、平成３０年４月に「つばさ南小学校・つばさ北小学校」として開校した。川島町教育委員会では平成３０年度に「川島町小中一貫教育推進協議会」を設置し、児童・生徒の教育環境の整備と質の高い学校教育を推進することを目指し、令和７年に「つばさ南小学校・つばさ北小学校・川島中学校による施設一体型小中一貫教育校」を開校する予定である。さらに、令和１７年を目途に、中山小学校、伊草小学校、西中学校を含めた町立小中学校を１校体制に集約する整備を予定している。

小中一貫教育の目標を①質の高い学力と次代を拓く力の育成 ②豊かな心と健やかな体の育成 ③質の高い教育を進める教育環境の整備・充実 ④学校・家庭・地域の連携協働として、小中一貫教育を推進している。

１学年～４学年を前期とし、基礎基本の徹底・学習習慣の確立を図り、学級担任制、４５分授業で４年生がリーダーとして活動する。

５学年～７学年を中期とし、定着した基礎基本を活用した学びの充実を図り、５・６学年は、学級担任制と一部教科担任制、４５分授業と５０分の授業を併用する。また、５学年から希望制で部活動に参加する。

８学年・９学年を後期として、学びの深化・発展と応用力の向上を図り、教科担任制、５０分授業で、教員が小学校の授業に参画する。

5 施設一体型小中一貫校推進計画について

槻川小学校と東秩父中学校を統合して小中一貫校にする場合、今後の流れとして次の二つの方法が想定される。

- (1) 東秩父中学校の敷地内に小学部の校舎等の施設が整った段階で東秩父村立の小中一貫校を開校する。
- (2) 槻川小学校と東秩父中学校を現在の校舎を活用する形で施設分離型の小中一貫校としてスタートし、東秩父中学校の敷地内に小学部の校舎の施設が整った段階で施設一体型の小中一貫校にする。

上記のいずれの場合にも開校に向けて次のような取組が必要である。

<開校に向けた作業の流れ>

開校準備委員会等の準備組織の立ち上げ

開校準備組織で、次の事項を協議する。

- (1) 村立小中一貫校の基本的な設立方針の検討
- (2) 9年間の教育課程の編成
東秩父村立小中一貫校の9年間の教育課程編成を行う。
(小中一貫校開校には、まず9年間の教育課程を編成する必要がある。)
- (3) 新設の小中一貫校への通学方法を確定し、児童生徒及び保護者へ周知する。
- (4) 制服・学校生活のルール等を作成し、児童生徒及び保護者へ周知する。
- (5) 新設の小中一貫校の校舎、施設設備の整備計画を作成する。
- (6) 校名の決定及び校歌・校章の作成計画を立てる。

予算措置及び必要な関係法令等の改正

- (1) 開校準備に向けた必要な予算を措置する。
- (2) 「東秩父村立学校設置及び管理条例」等の関係法令を改正する。

学校施設・設備・備品の整備

- (1) 東秩父中学校の敷地内（敷地の拡張も含む）に小学部の校舎及び関連施設を整備する。
- (2) 東秩父中学校の校舎を中学部の施設・設備として十分機能するように再整備する。

現小学校及び現中学校の廃校作業

- (1) 槻川小学校は、校舎使用も含めて廃校になることから、学校の記録の保存等を含めてその手続きを行う。
- (2) 東秩父中学校は、校舎は継続して活用するが、小中一貫校になることにより東秩父中学校はなくなることから学校の記録の保存等を含めてその手続きを行う。

学外組織の再編

- (1) これまで槻川小学校、東秩父中学校にあったPTA組織を小中一貫校開校に合わせて再編する。
- (2) これまで槻川小学校、東秩父中学校にあった学校支援組織を小中一貫校開校に合わせて再編する。

6 おわりに

検討委員会としての審議回数は11回であったが、教育に関わる国、県の動向や小中一貫教育の実践事例の収集、また、実践校の視察、アンケート調査等、教育委員会事務局及び検討委員会委員各自の日常的な取組を経て、どうにか諮問に対しての一定の結論を得ることができた。検討委員会の結論は上記で述べたとおり、現在ある小学校、中学校を一つにして、「小中一貫校」として村で1校の学校にするものである。日本の教育制度の中で、かつて学校は地域文化の発展や地域コミュニティの育成に中核的な役割を果たす時代があった。しかし、都市化や少子化の進行や人々の価値観やライフスタイルの変化等で、地域の中で果たす学校の役割も大きく変わってきており、「地域の学校」とか「地域で育てる子ども」といった考え方も失われつつある。これは「地域社会の教育力低下」といった言葉にもつながるものであり、さらには地域コミュニティの質の低下にも繋がっていく。こうした点を踏まえて国ではコミュニティスクールの推進にも取り組んでいるが、村で1校の学校になることを機会に、さらに地域と連携した学校づくりを推進し、村の発展につなげていきたいと考えている。そのため、是非この答申を尊重し、村政の推進に当たっていただきたい。教育委員会としてもその役割を大いに推進していく所存である。

東秩父村立小・中学校あり方検討委員会委員一覧

No.	要綱区分	所属	役職	氏名	備考
1	(1)	学識経験者（村外）	—	高橋 守	委員長
2	(1)	学識経験者（村内）	—	野口 博一	令和4年副委員長
			—	吉野 孝	令和5・6年副委員長
3	(2)	東秩父村立城山保育園	保護者会長	古屋 貴代	令和4年
				関口 美江	令和5年
				江原 多恵子	令和6年
4	(2)	東秩父村立槻川小学校 PTA	会長	渡邊 直之	令和4年
				轟 元気	令和5年
				坂本 樹俊	令和6年
5	(2)	東秩父村立東秩父中学校 PTA	会長	大野 孝行	令和4年
				馬場 健夫	令和5年
				尾石 楓	令和6年
6	(3)	東秩父村区長会	会長	原田 勝成	令和4年
				栗島 明生	令和5年
				峯岸 正明	令和6年
7	(3)	公募委員	—	高野 次雄	
8			—	奈良 幸子	
9	(4)	東秩父村立槻川小学校	校長	田端 隆二	令和4年
				川島 一伸	令和5・6年
10	(4)	東秩父村立東秩父中学校	校長	志田 隆之	令和4年
				田端 隆二	令和5・6年
11	(5)	東秩父村教育委員会	教育長職務代理	高田 長子	

【事務局名簿】

12	—	東秩父村教育委員会事務局	教育長	大久根 勇	令和４年
				小林 洋介	令和５・６年
13	—		事務局長	足立 利平	
14	—		学校教育指導員	瀬上 仁直	令和４年
				疋田 正典	令和４年
				菊地 昭男	令和５年
				志田 隆之	令和５・６年
				吉田 明弘	令和５年
				櫻井 仁志	令和６年
16	—		主査	笠間 利恵	令和４・５年
				岩田 浩興	令和６年

7 参考資料（東秩父村立小中学校あり方アンケート調査・集計結果）

資料

東秩父村立小中学校あり方アンケート調査

アンケート 質問内容
(26ページ～45ページ)

〔小学生用〕 ※4年生以上の児童を対象

このアンケートはこれからの東秩父村の学校をよりよくするために行うものです。学校のことについての以下の質問に答えて、みなさんの思いや考えをおしえてください。
東秩父村教育委員会

- 1 あなたは今の学校での生活が楽しいと思いますか。次のア～エのうちであてはまる記号に○をつけてください。

ア とても楽しいと思う

イ まあまあ楽しいと思う

ウ あまり楽しいと思わない

エ まったく楽しいとは思わない

- 2 あなたは学校ですすんで学習に取り組んでいますか。次のア～エのうちであてはまる記号に○をつけてください。

ア とても進んで取り組んでいる

イ まあまあ進んで取り組んでいる

ウ あまり進んで取り組んでいない

エ まったく進んで取り組んでいない

- 3 学校への通学のことであなたがこまっていることがありますか。次のア、イのうちであてはまる記号に○をつけてください。

ア ある

イ ない

「ある」と答えた人へ

どんなことでこまっているのか次の□の中に書いてください。

--

※ うらに続きます。

4 学校では、一人一台のパソコンを使用できますが、このことについて、あてはまる記号すべてに○をつけてください。

ア 一人一台あるのでとても便利である。

イ 授業中に使用できるのでとても役立っている。

ウ 休んだ時でも家でオンライン授業ができるのでとても助かっている。

エ 一人一台だと費用もかかるのが心配である。

オ その他 授業中で、パソコン以外にあると便利だと思うものがあつたら書いてください。

--

4 今、東秩父村の学校は人数の少ない小さな学校になっていますが、あなたはこのことについてどう思いますか。

あなたがこのことについて特に思うことを2つ選んで○をつけてください。

ア 人数が少ないのでみんなとよく知り合うことができ、このままでよい。

イ 人数が少ないので先生が一人一人によく教えてくれるからこのままでよい。

ウ 人数が少ないので学校でのびのびと過ごせるからこのままでよい。

エ 人数が少ないと上級生や下級生とのつながりがよくなるのでこのままの方がよい。

オ 人数が少ないと上級生とのつながりが多くなり、気をつかうのもっと人数の多い学校になった方がよい。

カ 人数が少ないと友達に限られてしまうのもっと人数の多い学校になった方がよい。

キ 人数が少ないといろいろな人と知り合いになれなくなるのもっと人数の多い学校になった方がよい。

ク 人数が多い方がいろいろな人と助け合ったり、競争したりできるのでもっと人数の多い学校になった方がよい。※次のページへ続きます。

- 5 児童・生徒の人数が少なくなったことなどを理由に、全国には小学校と中学校を一緒にして「小中一貫校(いっかんこう)」にしている地域もあります。

あなたは、もし、東秩父村の小学校、中学校を一緒にして「小中一貫校」にするという考えが出てきた場合、あなたならどう思いますか。

次の中から自分の思いにあてはまるものすべてに○をつけてください。

- ア 1つに学校の中に小学生と中学生が一緒にいるようになり、友達が多くなるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。
- イ 1つの学校の中に小学校の先生も中学校の先生もいるようになるので、いろいろなことを教えてもらえるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。
- ウ 「小中一貫校」になると、小学校を卒業して新たな中学校に行くという不安がなくなり、自然に学習を続けることができるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。
- エ 「小中一貫校」になると、同じ学校で9年間続けて学べ、学習しやすくなるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。
- オ 「小中一貫校」には小学生と中学生が一緒にいるので、中学生が小学校1・2年生など低学年の面倒をみる機会が増え、良い体験が出来るので「小中一貫校」にした方がよいと思う。
- カ 1つに学校の中に小学生と中学生が一緒にいるようになるのでやりにくくなるので「小中一貫校」にしない方がよいと思う。
- キ 少人数の「小中一貫校」だと、ほぼ同じ人同士の上級生、下級生の関係が9年間続くようになるので生活しにくくなるので「小中一貫校」にしない方がよいと思う。

- 6 あなたは、これからの東秩父の学校がどのような学校になってほしいと思いますか。あなたが思うことを自由に書いてください。

--

〔中学生用〕

このアンケートはこれからの東秩父村の学校をよりよくするために行うものです。学校のことについての以下の質問に答えて、みなさんの思いや考えを教えてください。
東秩父村教育委員会

- 1 あなたは今の学校での生活が楽しいと思いますか。次のア～エのうちで当てはまる記号に○をつけてください。

ア とても楽しいと思う

イ まあまあ楽しいと思う

ウ あまり楽しいと思わない

エ まったく楽しいとは思わない

- 2 あなたは学校で進んで学習に取り組んでいますか。次のア～エのうちで当てはまる記号に○をつけてください。

ア とても進んで取り組んでいる

イ まあまあ進んで取り組んでいる

ウ あまり進んで取り組んでいない

エ まったく進んで取り組んでいない

- 3 学校への通学のことであなたが困っていることがありますか。次のア、イのうちで当てはまる記号に○をつけてください。

ア ある

イ ない

「ある」と答えた人へ
どんなことでこまっているのか次の□の中に書いてください。

--

※裏に続きます。

- 4 学校では、一人一台のパソコンを使用できますが、このことについて、
あてはまる記号すべてに○をつけてください。
- ア 一人一台あるのでとても便利である。
- イ 授業中に使用できるのでとても役立っている。
- ウ 休んだ時でも家でオンライン授業ができるのでとても助かっている。
- エ 一人一台だと費用もかかるのが心配である。
- オ その他 授業中で、パソコン以外にあると便利だと思うものがあつたら
書いてください。

--

- 5 今、東秩父村の学校は人数の少ない小さな学校になっていますが、あなたは
このことについてどう思いますか。
あなたがこのことについて特に思うことを2つ選んで○をつけてください。
- ア 人数が少ないのでみんなとよく知り合うことができ、このままでよい。
- イ 人数が少ないので先生が一人一人によく教えてくれるからこのままで
よい。
- ウ 人数が少ないので学校でのびのびと過ごせるからこのままでよい。
- エ 人数が少ないと上級生や下級生とのつながりが良くなるのでこのまま
の方がよい。
- オ 人数が少ないと上級生や下級生とのつながりが多くなり、気をつかう
のもっと人数の多い学校になった方がよい。
- カ 人数が少ないと友達に限られてしまうのもっと人数の多い学校にな
った方がよい。
- キ 人数が少ないといろいろな人と知り合いになれなくなるのもっと人
数の多い学校になった方がよい。
- ク 人数が少ないと部活動など多くに人と一緒にやる活動ができにくくな
るのもっと人数の多い学校になった方がよい。
- ケ 人数が多い方がいろいろな人と助け合ったり、競争したりできるので
もっと人数の多い学校になった方がよい。 ※次のページに続きます。

6 児童・生徒の人数が少なくなったことなどを理由に、全国には小学校と中学校を一緒にして「小中一貫校」にしている地域もあります。

あなたは、もし、東秩父村の小学校、中学校を一緒にして「小中一貫校」にするという考えが出てきた場合、あなたならどう思いますか。

次の中から自分の思いにあてはまるものすべてに○をつけてください。

ア 1つに学校の中に小学生と中学生が一緒にいるようになり、友達が多くなるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

イ 1つの学校の中に小学校の先生も中学校の先生もいるようになるので、いろいろなことを教えてもらえるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

ウ 「小中一貫校」になると、小学校を卒業して新たな中学校に行くという不安がなくなり、自然に学習を続けることができるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

エ 「小中一貫校」になると、同じ学校で9年間続けて学べ、学習しやすくなるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

オ 「小中一貫校」には小学生と中学生が一緒にいるので、中学生が小学校1・2年生など低学年の面倒をみる機会が増え、良い体験が出来るので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

カ 1つに学校の中に小学生と中学生が一緒にいるようになるのでやりにくくなるので「小中一貫校」にしない方がよいと思う。

キ 少人数の「小中一貫校」だと、ほぼ同じ人同士の上級生、下級生の関係が9年間続くようになるので生活しにくくなるので「小中一貫校」にしない方がよいと思う。

7 あなたは、これからの東秩父村の学校がどのような学校になってほしいと思いますか。あなたの思うことを自由に書いてください。

--

令和5年9月 日

村立小・中学校 保護者 各位

東秩父村教育委員会
教育長 小林 洋介

小・中学校のあり方に関するアンケートの協力について(依頼)

初秋の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のことと拝察申し上げます。日頃より、本村の学校教育にご理解・ご支援をいただきまして、ありがとうございます。

さて、東秩父村教育委員会では、現在、小規模となった学校の教育活動を充実すべく様々な施策を講じているところです。また、今後更なる児童・生徒数の減少が見込まれるため、今後の学校のあり方を検討すべく「東秩父村立小・中学校あり方検討委員会」を立ち上げ、委員を委嘱して将来に向けての小・中学校のあり方について検討をいただいております。

そこで、小・中学校のあり方に関連し、村民・保護者の皆様にアンケートのご協力をいただき、今後の教育行政推進の参考にしたいと考えております。また、アンケートの結果については審議の参考となるよう検討委員会にも提供したいと考えています。

お忙しい中、お手数ですが、アンケートにご回答いただき、下記のようにご返送をお願いいたします。

記

1 アンケートの目的

将来に向けての小学校・中学校のあり方をどのようにしたらよいのかを村民・保護者の皆様から考えを伺い、今後の教育行政推進の参考にする。

2 アンケートの締め切り 9月末日まで

3 返送方法 さくら連絡網メールにて回答

4 その他 ご不明なことがありましたら、下記までご連絡ください。

担当	東秩父村教育委員会 学校教育指導員 志田
連絡先	 8 2 - 1 2 3 0

村民・保護者の皆様へ

東秩父村教育委員会

今後の小・中学校のあり方につきましてご回答いただければ幸いです。
よろしく願いいたします。

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

<学校教育に関して>

東秩父村の小学校、中学校では、特色ある教育活動を推進しています。そこで、次の教育活動について、皆様のお考えをお聞かせください。

- ① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他（意見・理由： _____）

- ② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めていってほしい。

エ その他(意見・理由： _____)

- ③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。

エ その他(意見・理由： _____)

※裏へ続きます。

- ④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員と一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は、別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

- ⑤ 東秩父村では、小学校1年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週2日小学校にAET(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校1年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校1年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校3年生からがよい。

エ その他(意見・理由：)

- ⑥ 今後、東秩父村で英語教育以外にどのような教育活動を推進するとよいと考えますか。お考えを自由にお書きください。(わからない場合は書かなくて結構です)

--

<学校体制に関して>

村の小学校、中学校は児童生徒数の減少に伴い、現在小学校1校、中学校1校の状況になっています。児童生徒数の減少は今後も見込まれるため、学校では、義務教育9年間を見通して教育ができるように、小学校、中学校が連携して教育を進めていく努力をしています。

※次のページに続きます。

全国的には、小学校、中学校の連携をさらに深めて小中を一緒にした小中一貫教育校を設置している市町村もあります。今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。 ※2つまで選んでください。

ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。

イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。

ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。

エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。

オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。

カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）

キ その他の方法

ご協力ありがとうございました。

☆用語解説

○小中連携教育とは

小学校及び中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育をいいます。

○小中一貫教育とは

小中連携教育のうち、小中学校の教員が、目指す子ども像を共有するとともに、9年間を通じた教育課程(学校の教育計画等)を作成し、小1から中3まで順序よく組み立てた教育を目指す教育です。

○施設一体型と施設分離型の小中一貫教育とは

小中一貫教育は、施設一体型(小中が同じ敷地内にある)、隣接型(小中が隣にある)、分離型(小中が離れたところにある)といった施設のどれかになります。東京都品川区の例



東 秩 父 村 立 小 ・ 中 学 校 あり方 についてのアンケート 回答用紙

※この用紙のみ、ご返送ください。

※年代を○で囲んでください。

20・30代

40・50代

60代以上

<学校教育に関して>

① ア イ ウ
エ ()

② ア イ ウ
エ ()

③ ア イ ウ
エ ()

④ ア イ ウ
エ ()

⑤ ア イ ウ
エ ()

⑥ どのような教育活動を推進するとよいか。お考えを自由にお書きください。

--

<学校体制に関して>

※2つまで選んで○をつけてください。

ア イ ウ エ オ カ

キ その他の方法

--

令和5年9月8日

各 位

東秩父村教育委員会
教育長 小林 洋介
(公印省略)

小・中学校のあり方に関するアンケートの協力について(依頼)

初秋の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のことと拝察申し上げます。日頃より、本村の学校教育にご理解・ご支援をいただきまして、ありがとうございます。

さて、東秩父村教育委員会では、現在、小規模となった学校の教育活動を充実すべく様々な施策を講じているところです。また、今後更なる児童・生徒数の減少が見込まれるため、今後の学校のあり方を検討すべく「東秩父村立小・中学校あり方検討委員会」を立ち上げ、委員を委嘱して将来に向けての小・中学校のあり方について検討をいただいております。

そこで、小・中学校のあり方に関連し、村民・保護者の皆さまにアンケートのご協力をいただき、今後の教育行政推進の参考にしたいと考えております。また、アンケートの結果については審議の参考となるよう検討委員会にも提供したいと考えています。

ご多用のところ大変恐縮に存じますが、アンケートにご回答いただき、下記のようにご返送をお願いいたします。

記

1 アンケートの目的

将来に向けての小学校・中学校のあり方をどのようにしたらよいのかを村民の皆さまから考えを伺い、今後の教育行政推進の参考にする。

2 アンケートの締め切り 10月13日(金)まで

3 返送方法 別紙 回答用紙のみを返送用の封筒で返送してください。

4 その他 ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

担 当	東秩父村教育委員会事務局 学校教育指導員 志田
連絡先	 82-1230

村民の皆さまへ

東秩父村教育委員会

今後の小・中学校のあり方につきましてご回答いただければ幸いです。
よろしくお願いいたします。

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

<学校教育に関して>

東秩父村の小学校、中学校では、特色ある教育活動を推進しています。そこで、次の教育活動について、皆様のお考えをお聞かせください。

- ① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他（意見・理由：_____）

- ② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めていってほしい。

エ その他（意見・理由：_____）

- ③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。

エ その他（意見・理由：_____）

※裏へ続きます。

- ④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員と一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は、別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

- ⑤ 東秩父村では、小学校1年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週2日小学校にAET(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校1年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校1年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校3年生からがよい。

エ その他(意見・理由：)

- ⑥ 今後、東秩父村で英語教育以外にどのような教育活動を推進するとよいと考えますか。お考えを自由にお書きください。(わからない場合は書かなくて結構です)

--

<学校体制に関して>

村の小学校、中学校は児童生徒数の減少に伴い、現在小学校1校、中学校1校の状況になっています。児童生徒数の減少は今後も見込まれるため、学校では、義務教育9年間を見通して教育ができるように、小学校、中学校が連携して教育を進めていく努力をしています。

※次のページに続きます。

全国的には、小学校、中学校の連携をさらに深めて小中を一緒にした小中一貫教育校を設置している市町村もあります。今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。 ※2つまで選んでください。

ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。

イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。

ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。

エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。

オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。

カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）

キ その他の方法

ご協力ありがとうございました。

☆用語解説

○小中連携教育とは

小学校及び中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育をいいます。

○小中一貫教育とは

小中連携教育のうち、小中学校の教員が、目指す子ども像を共有するとともに、9年間を通じた教育課程(学校の教育計画等)を作成し、小1から中3まで順序よく組み立てた教育を目指す教育です。

○施設一体型と施設分離型の小中一貫教育とは

小中一貫教育は、施設一体型(小中が同じ敷地内にある)、隣接型(小中が隣にある)、分離型(小中が離れたところにある)といった施設のどれかになります。東京都 品川区の例



東 秩 父 村 立 小 ・ 中 学 校 あり方 についてのアンケート 回答用紙

※この用紙のみ、ご返送ください。

※年代を○で囲んでください。

20・30代

40・50代

60代以上

<学校教育に関して>

① ア イ ウ
エ ()

② ア イ ウ
エ ()

③ ア イ ウ
エ ()

④ ア イ ウ
エ ()

⑤ ア イ ウ
エ ()

⑥ どのような教育活動を推進するとよいか。お考えを自由にお書きください。

--

<学校体制に関して>

※2つまで選んで○をつけてください。

ア イ ウ エ オ カ

キ その他の方法

--

東秩父村立小中学校教職員の皆様へ

東秩父村教育委員会

今後の小・中学校のあり方につきましてご回答いただければ幸いです。
よろしくお願いいたします。

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

<学校教育に関して>

東秩父村の小学校、中学校では、特色ある教育活動を推進しています。そこで、次の教育活動について、皆様のお考えをお聞かせください。

- ① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他（意見・理由：_____）

- ② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めてほしい。

エ その他（意見・理由：_____）

- ③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めてほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにほしい。

エ その他（意見・理由：_____）

※裏へ続きます。

- ④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員が一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は、別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

- ⑤ 東秩父村では、小学校1年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週2日小学校にAET(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校1年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校1年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校3年生からがよい。

エ その他(意見・理由：)

- ⑥ 今後、東秩父村で英語教育以外にどのような教育活動を推進するとよいと考えますか。お考えを自由にお書きください。(わからない場合は書かなくて結構です)

<学校体制に関して>

村の小学校、中学校は児童生徒数の減少に伴い、現在小学校1校、中学校1校の状況になっています。児童生徒数の減少は今後も見込まれるため、学校では、義務教育9年間を見通して教育ができるように、小学校、中学校が連携して教育を進めていく努力をしています。

※次のページに続きます。

全国的には、小学校、中学校の連携をさらに深めて小中を一緒にした小中一貫教育校を設置している市町村もあります。今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。 ※2つまで選んでください。

ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。

イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。

ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。

エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。

オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。

カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）

キ その他の方法

ご協力ありがとうございました。

☆用語解説

○小中連携教育とは

小学校及び中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育をいいます。

○小中一貫教育とは

小中連携教育のうち、小中学校の教員が、目指す子ども像を共有するとともに、9年間を通じた教育課程(学校の教育計画等)を作成し、小1から中3まで順序よく組み立てた教育を目指す教育です。

○施設一体型と施設分離型の小中一貫教育とは

小中一貫教育は、施設一体型(小中が同じ敷地内にある)、隣接型(小中が隣にある)、分離型(小中が離れたところにある)といった施設のどれかになります。東京都 品川区の例



回答用紙

<学校教育に関して>

- ① ア イ ウ
エ ()
- ② ア イ ウ
エ ()
- ③ ア イ ウ
エ ()
- ④ ア イ ウ
エ ()
- ⑤ ア イ ウ
エ ()

--

<学校体制に関して>

ア イ ウ エ オ カ

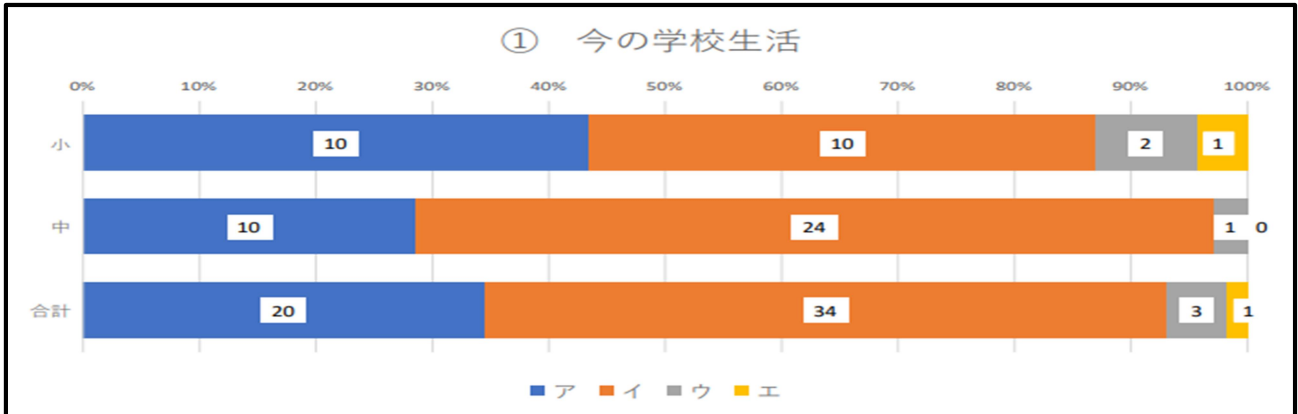
アンケート 集計結果

**意見については考察に記載
（47ページ～64ページ）**

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

＜小・中学生 小学生：23名 中学生：35名 合計：58名＞

1 あなたは今の学校での生活が楽しいと思いますか。次のア～エのうちであてはまる記号に○をつけてください。



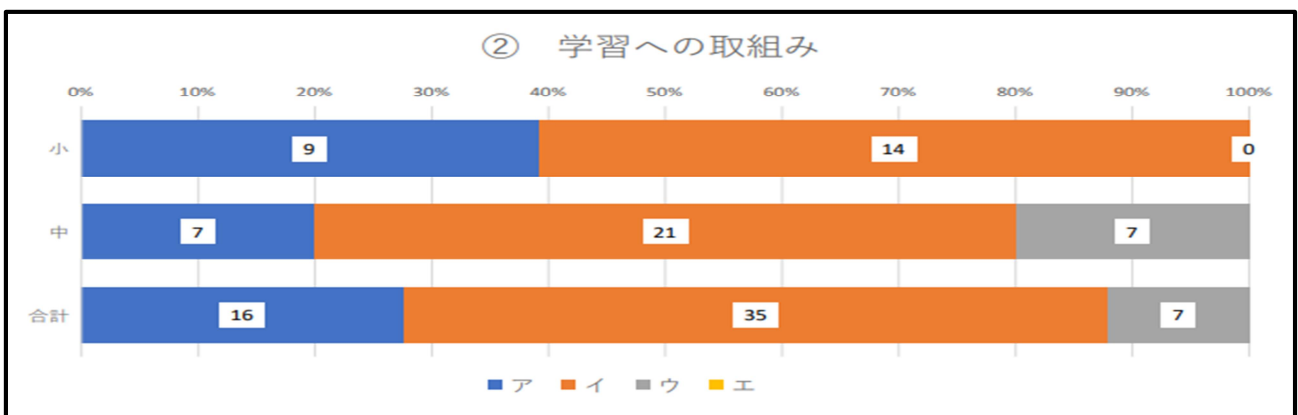
ア とても楽しいと思う

イ まあまあ楽しいと思う

ウ あまり楽しいと思わない

エ まったく楽しいとは思わない

2 あなたは学校ですすんで学習に取り組んでいますか。
次のア～エのうちであてはまる記号に○をつけてください。



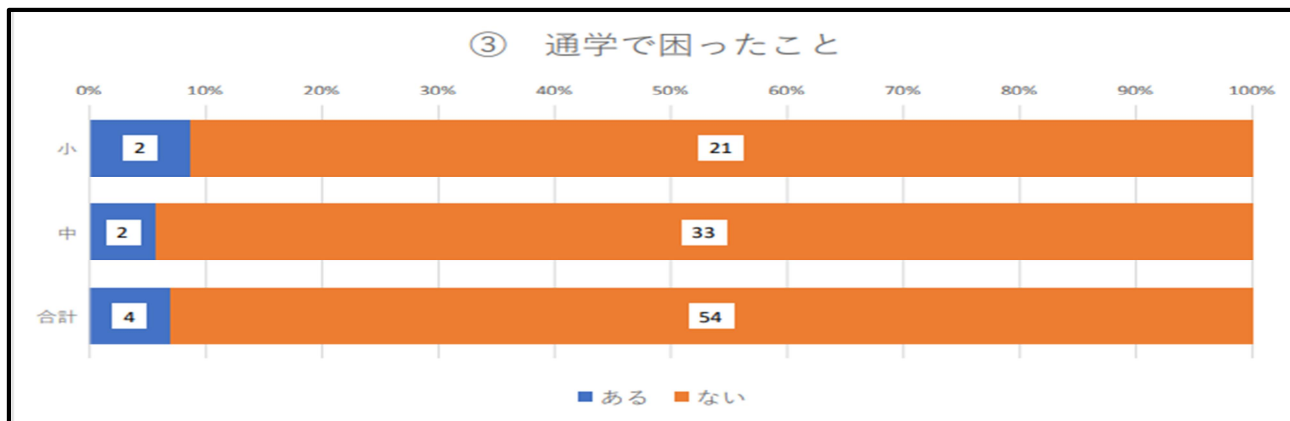
ア とても進んで取り組んでいる

イ まあまあ進んで取り組んでいる

ウ あまり進んで取り組んでいない

エ まったく進んで取り組んでいない

3 学校への通学のことであなたがこまっていることがありますか。 次のア、イのうち
 であてはまる記号に○をつけてください。



ア ある

小：前においていかれて 20 分待たされた。【雨の中】

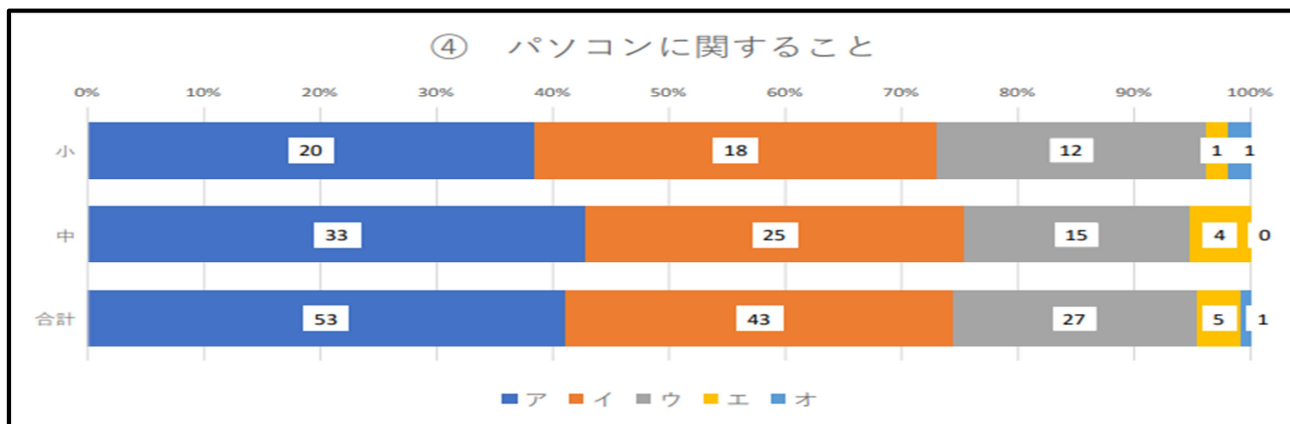
小：バスの中でしゃべっていたり、騒いでいる。

中：道がデコボコしてる坂道が大変。

中：自転車で通学路が危いところがある。

イ ない

4 学校では、一人一台のパソコンを使用できますが、このことについて、あてはまる記
 号すべてに○をつけてください。



ア 一人一台あるのでとても便利である。

イ 授業中に使用できるのでとても役立っている。

ウ 休んだ時でも家でオンライン授業ができるのでとても助かっている。

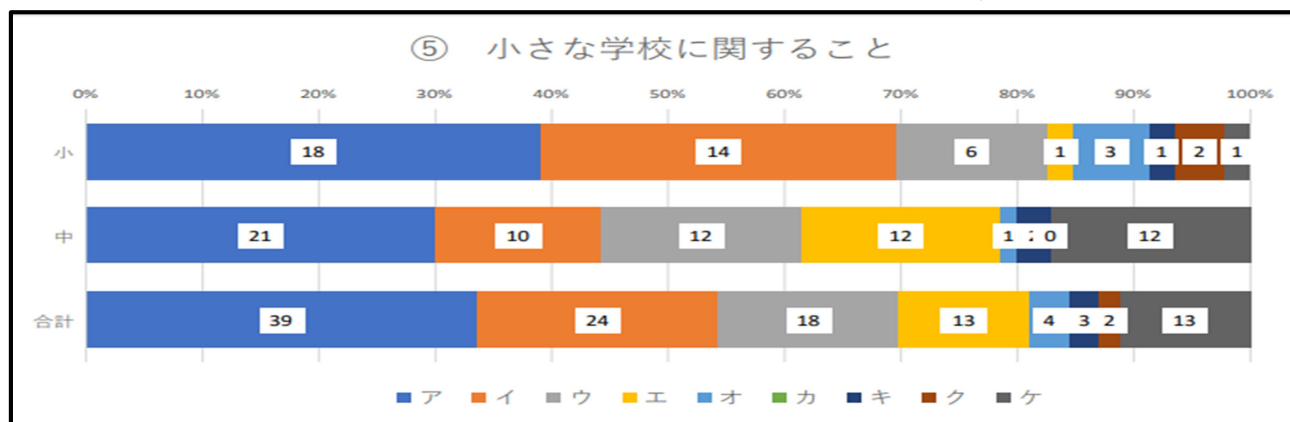
エ 一人一台だと費用もかかるのが心配である。

その他 授業中で、パソコン以外にあると便利だと思うものがあったら書いてください。

小：いろんなことを知れる。

5 今、東秩父村の学校は人数の少ない小さな学校になっていますが、あなたはこのことについてどう思いますか。

あなたがこのことについて特に思うことを2つ選んで○をつけてください。



ア 人数が少ないのでみんなとよく知り合うことができ、このままでよい。

イ 人数が少ないので先生が一人一人によく教えてくれるからこのままでよい。

ウ 人数が少ないので学校でのびのびと過ごせるからこのままでよい。

エ 人数が少ないと上級生や下級生とのつながりがよくなるのでこのままの方がよい

オ 人数が少ないと上級生とのつながりが多くなり、気をつかうのでもっと人数の多い学校になった方がよい。

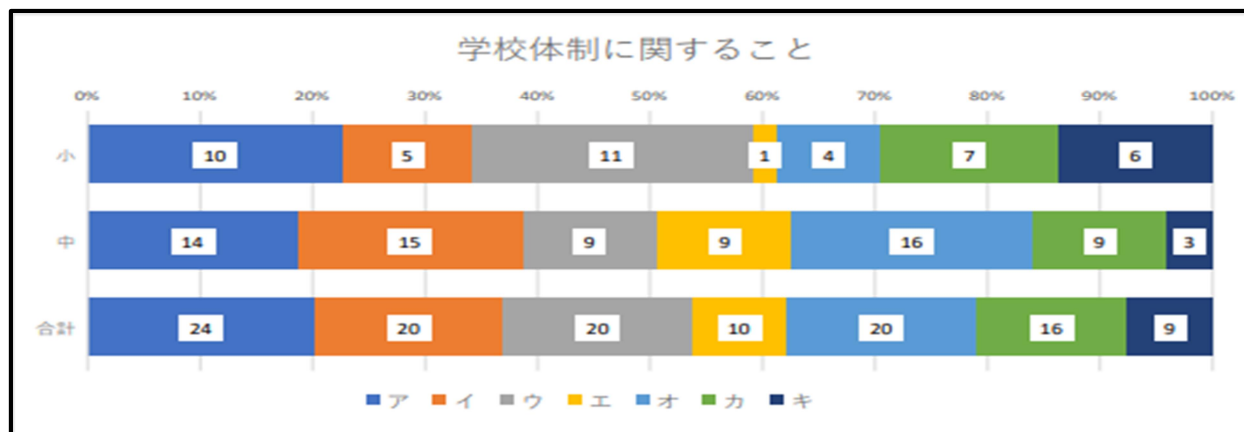
カ 人数が少ないと友達に限られてしまうのでもっと人数の多い学校になった方がよい。

キ 人数が少ないといろいろな人と知り合いになれなくなるのでもっと人数の多い学校になった方がよい。

ク 人数が多い方がいろいろな人と助け合ったり、競争したりできるのでもっと人数の多い学校になった方がよい。

ケ 人数が少ないと部活動など多くの人と一緒にやる活動ができにくくなるのでもっと人数の多い学校になった方がよい。

■児童・生徒の人数が少なくなったことなどを理由に、全国には小学校と中学校を一緒にして「小中一貫校(いっかんこう)」にしている地域もあります。あなたは、もし、東秩父村の小学校、中学校を一緒にして「小中一貫校」にするという考えが出てきた場合、あなたならどう思いますか。次の中から自分の思いにあてはまるものすべてに○をつけてください。



ア 1つに学校の中に小学生と中学生が一緒にいるようになり、友達が多くなるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

イ 1つの学校の中に小学校の先生も中学校の先生もいるようになるので、いろいろなことを教えてもらえるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

ウ「小中一貫校」になると、小学校を卒業して新たな中学校に行くという不安がなくなり、自然に学習を続けることができるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

エ「小中一貫校」になると、同じ学校で9年間続けて学べ、学習しやすくなるので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

オ「小中一貫校」には小学生と中学生が一緒にいるので、中学生が小学校1・2年生など低学年の面倒をみる機会が増え、良い体験が出来るので「小中一貫校」にした方がよいと思う。

カ 1つの学校の中に小学生と中学生が一緒にいるようになるのでやりにくくなるので「小中一貫校」にしない方がよいと思う。

キ 少人数の「小中一貫校」だと、ほぼ同じ人同士の上級生、下級生の関係が9年間続くようになるので生活しにくくなるので「小中一貫校」にしない方がよいと思う。

■あなたは、これからの東秩父の学校がどのような学校になってほしいと思いますか。あなたが思うことを自由に書いてください。

中：笑顔あふれる楽しい学校

中：校則などを、現代にふさわしい校則にしてほしい。

中：みんなが少しでも過ごしやすくなってほしい。

中：（これから）みんなが仲良く、安心して来れる学校

中：今のように、少人数でも学校が楽しいと思える学校

中：全校生徒が仲良く、楽しく過ごせる学校

中：この村の東秩父中でしかあまり体験できないたかなわ作りや総合のコースごとの活動で伝統文化を守り続ける学校、学年に関係なくみんなの仲がいい学校をこれからも続けていってほしいです。

中：部活などで、他の学校とのかかわりをもっと大切に、活気あふれる学校になってほしいと思います。

中：もっと下級生、上級生、小学生と関わることができる学校になってほしい。

中：行事がもっと盛り上がるようになってほしいと思う。

中：たまに、給食の時間が足りないことがあるので、もう少し長くなったほうがいいなと思います。（もっとゆっくり給食が食べられる学校になってほしい）

中：毎日楽しく学校に行けるような学校

中：1年、2年などが関係なくもっと仲良くなれるような学校にしたいです。

中：みんなが楽しんで勉強に取り組める学校

中：学校生活がとても楽しくなる学校になってほしい。

中：学校に行くのが楽しくなる学校

中：もっと賑やかになってほしい。人数が増えてほしい。

中：色々な生徒がのびのびと過ごせる学校になったらいいと思う

中：勉強しやすい学校

中：楽しい学校

中：毎日楽しく学校生活が送れるような学校

中：みんな仲が良い学校になってほしい。

中：みんなで助け合う、元気な学校

中：小、中学校で授業をやるのも大切だけれど、teams や zoom などのリモートでやってもパソコンに少しだけ強くなったり、遠くからでもできるので、少し風邪をひいている、なにかしらの病気にかかったけど授業に参加したいという人たちが家からやれば、友達やほかのクラスの人に病気がうつることがないので 互いに安心して授業に取り組めるというメリットがあるように感じる。しかし ネットトラブルなどの問題が生じることがあるが、それでもどこでもできるという点はネットトラブルよりも大きなメリットに感じるので今後リモートでやる回数が増えるといいなと思う。

中：今までどうりの学校

小：全員が仲良しな学校

小：自然といっぱいふれあえる。

小：自然とふれあって楽しく学べる東秩父の学校

小：楽しいと思えるような学校。

小：みんなの仲がいい学校になってほしい。

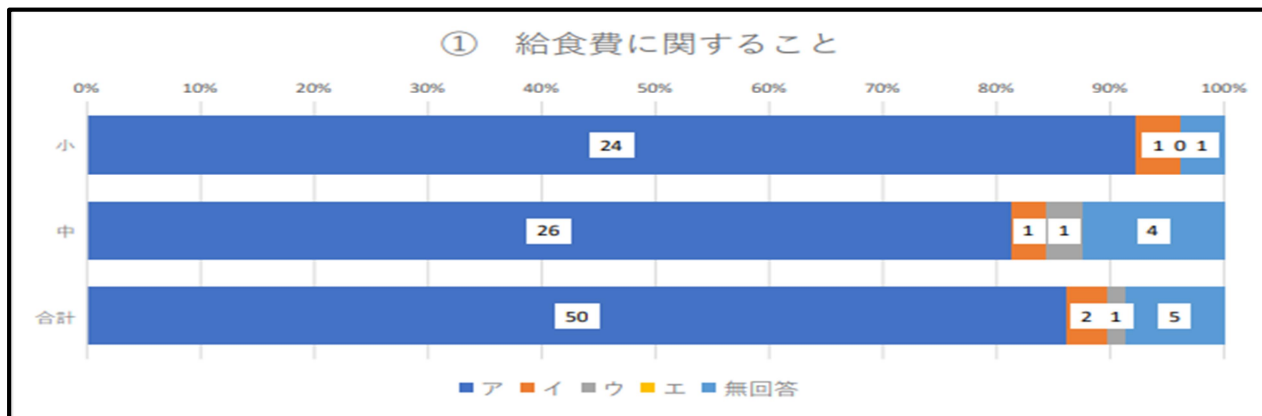
小：仲良く笑顔あふれる素敵な学校になってほしい。

小：元気で楽しい学校になってほしいです。
小：楽しい学校
小：ケンカのないみんな仲がいい学校
小：自然の溢れる元気な学校
小：もっと人数が増えたほうがいい。
小：元気でやさしいクラス
小：給食がもっと増える。
小：今のままでいいと思います。
小：いじめがないみんな仲良しな学校になってほしい。
小：みんなが仲良しで喧嘩の少ない学校にしていきたい。
小：けんかがなく少ない人数で仲良く過ごしてほしいです。

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

＜保護者 小：26名 中：32名（両方に在籍する保護者は上の学年で回答） 回答58名＞

① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。



ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

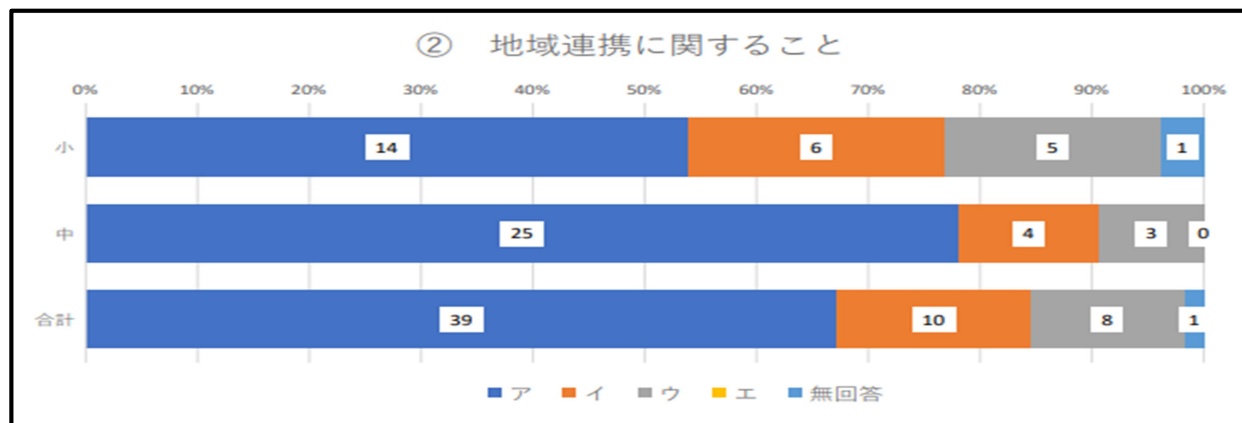
イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他（意見・理由：

）

② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

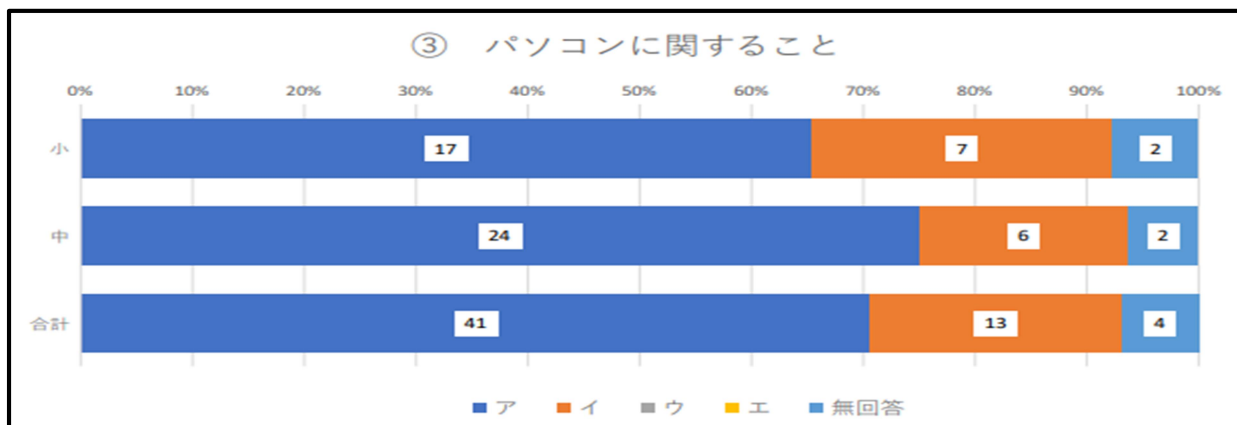
イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めていってほしい。

エ その他（意見・理由：

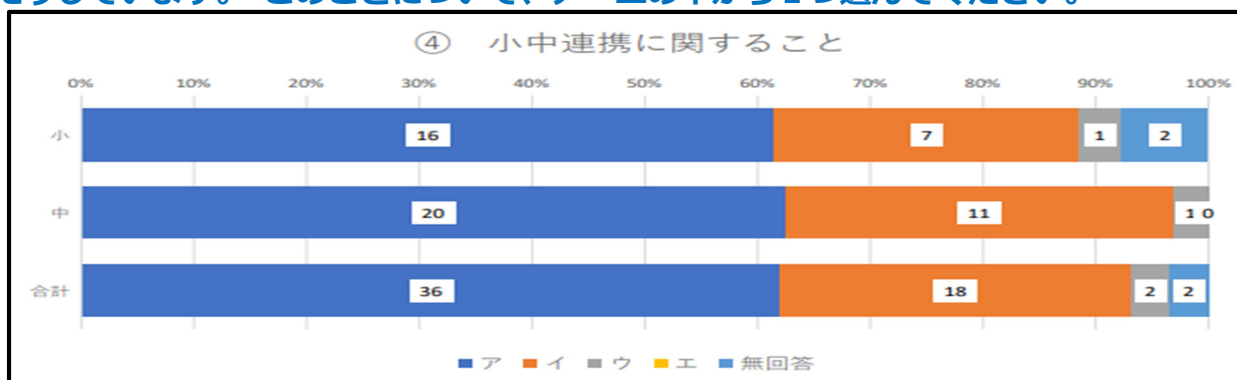
）

③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



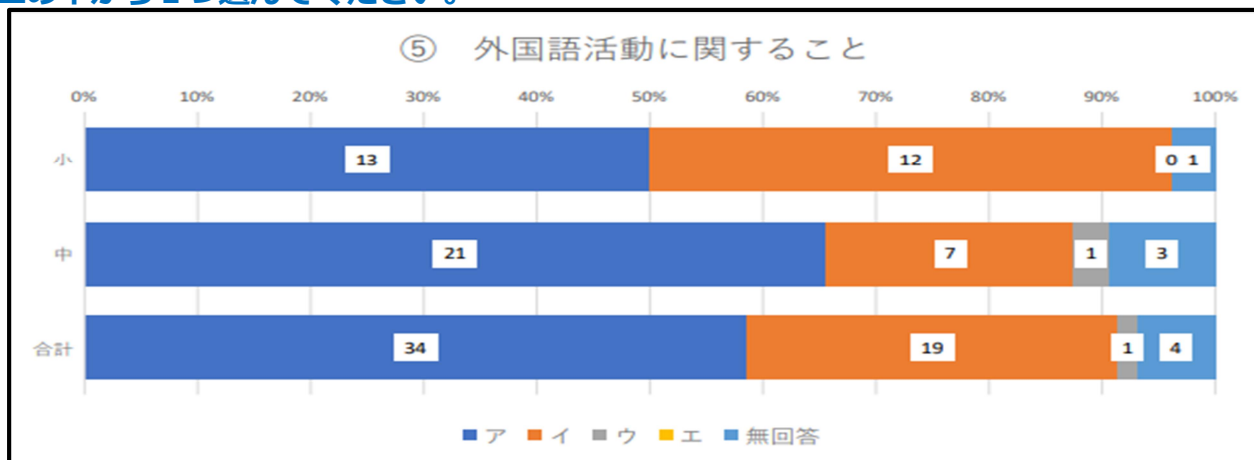
ア とてもよい取組なので、継続してほしい。
 イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。
 ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。
 エ その他(意見・理由：)

④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小 中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員が一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。
 イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でも さらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。
 ウ 小学校と中学校は別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。
 エ その他(意見・理由：)

⑤ 東秩父村では、小学校 1 年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週 2 日小学校に A E T (英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から 1 つ選んでください。



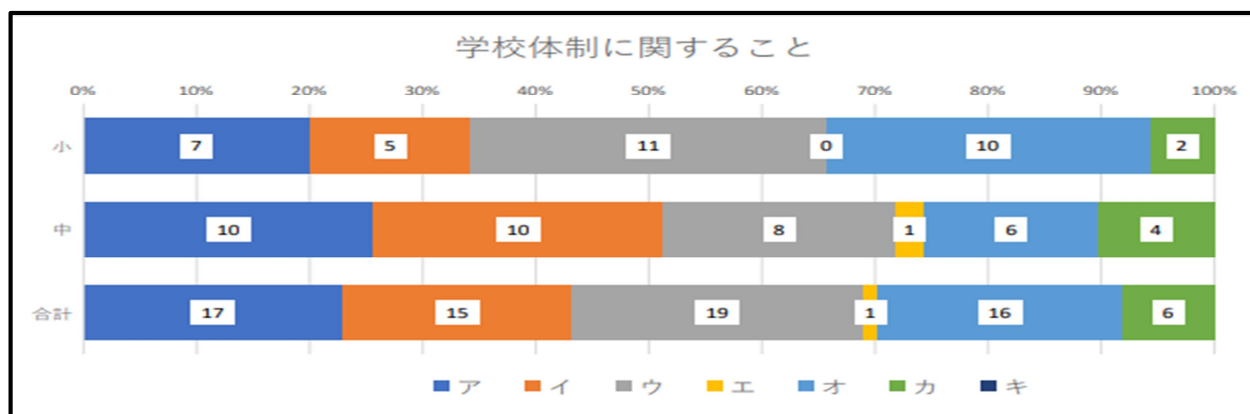
ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校 1 年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校 1 年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校 3 年生からがよい。

エ その他（意見・理由： ）

■全国的には、小学校、中学校の連携をさらに深めて小中を一緒にした小中一貫教育校を設置している市町村もあります。今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。 ※ 2 つまで選んでください。



ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。

イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9 年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。

ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。

エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。

オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。

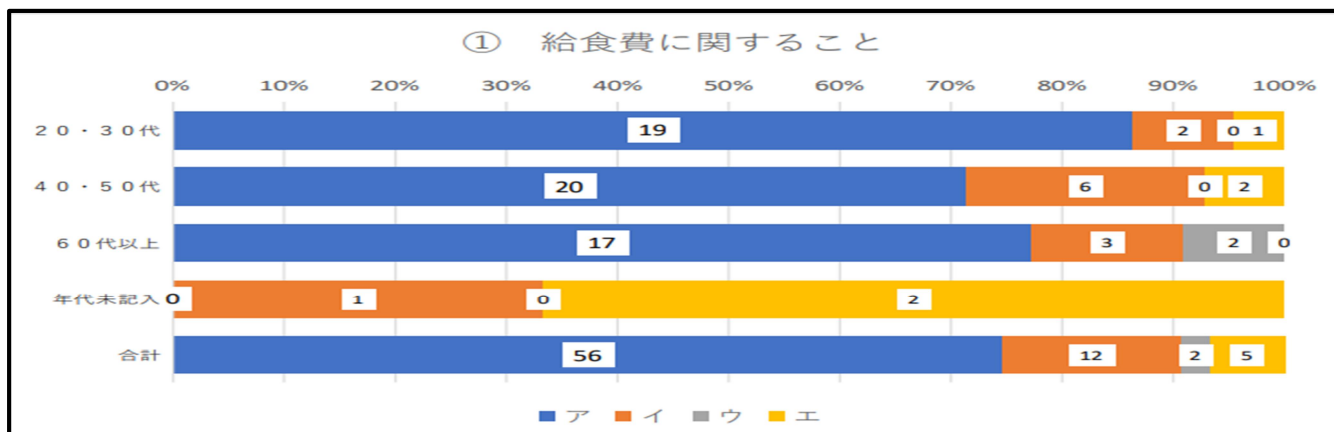
カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）

キ その他の方法

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

<住民 回答数75>

① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。



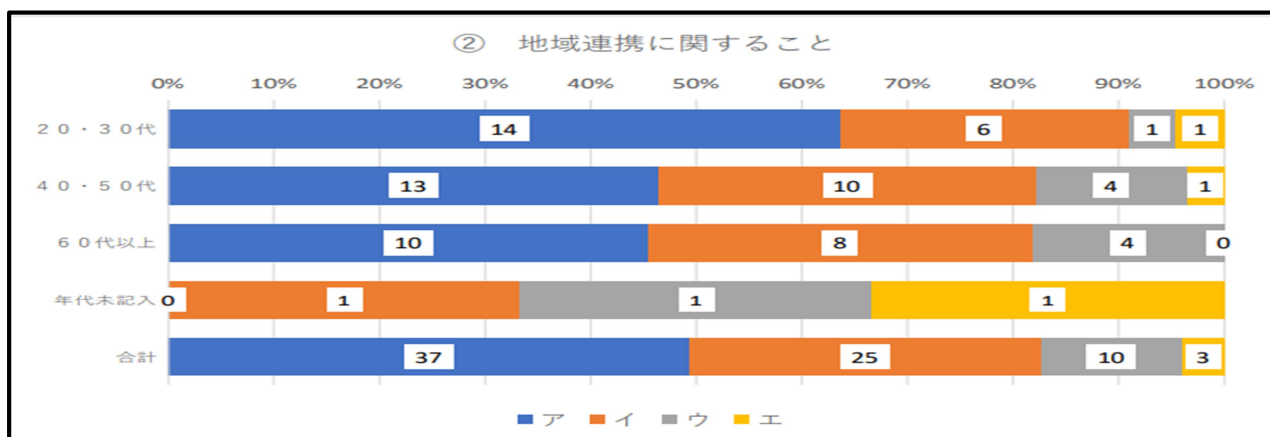
ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他(意見・理由：) → 考察に記載

② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



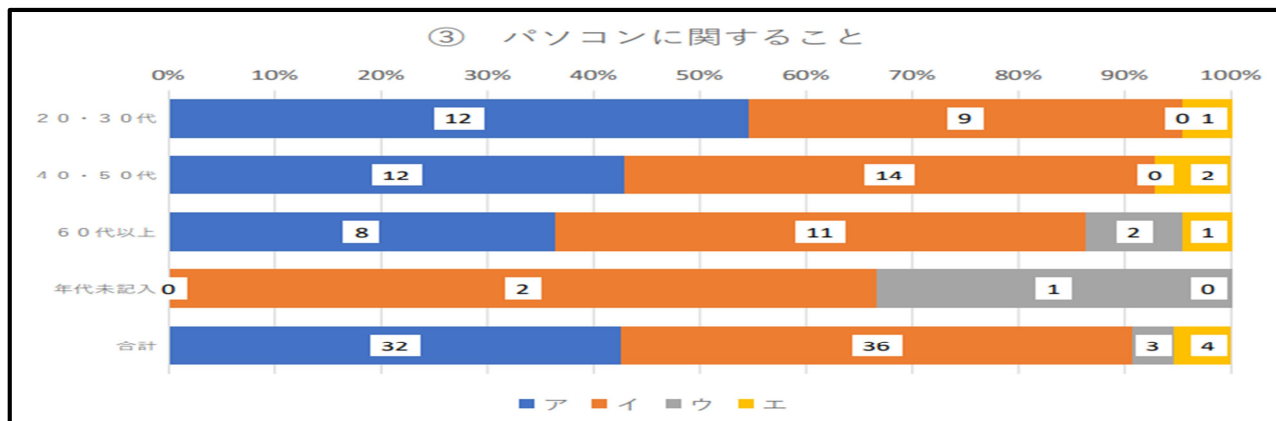
ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めてほしい。

エ その他(意見・理由：) → 考察に記載

③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家においてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



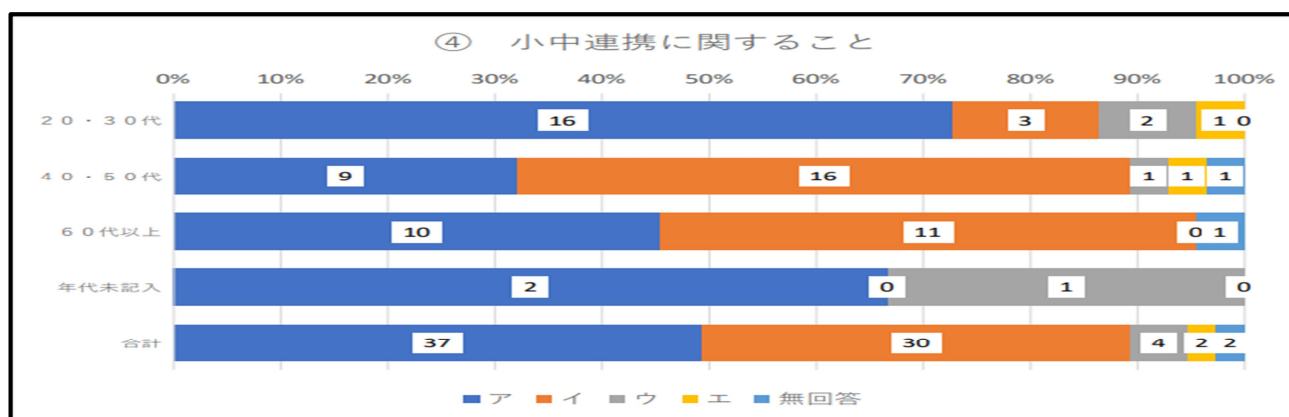
ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。

エ その他(意見・理由：)→ 考察に記載

④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携して いて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員と一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



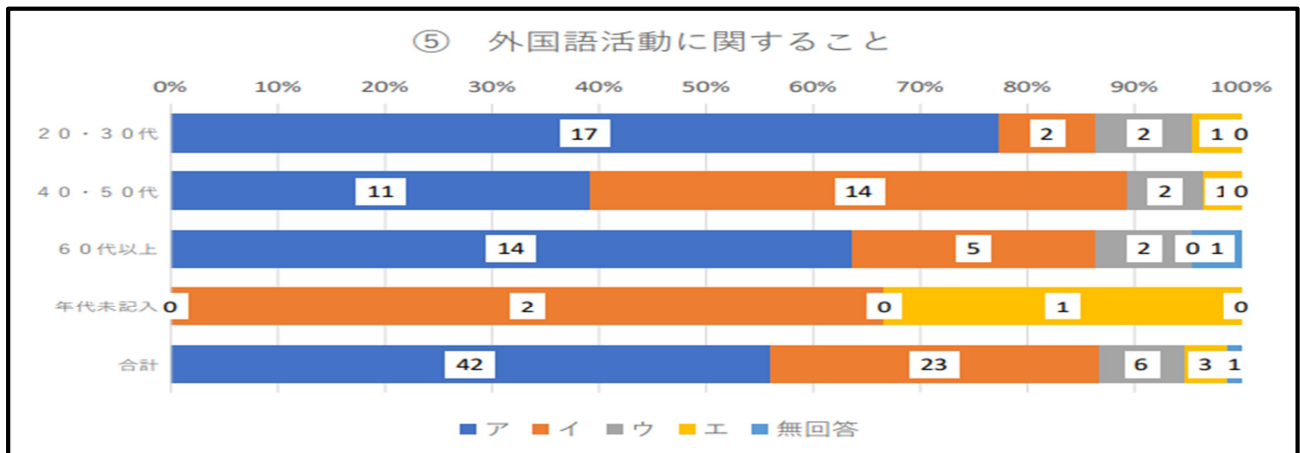
ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)→ 考察に記載

⑤ 東秩父村では、小学校１年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週２日小学校にＡＥＴ(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から１つ選んでください。



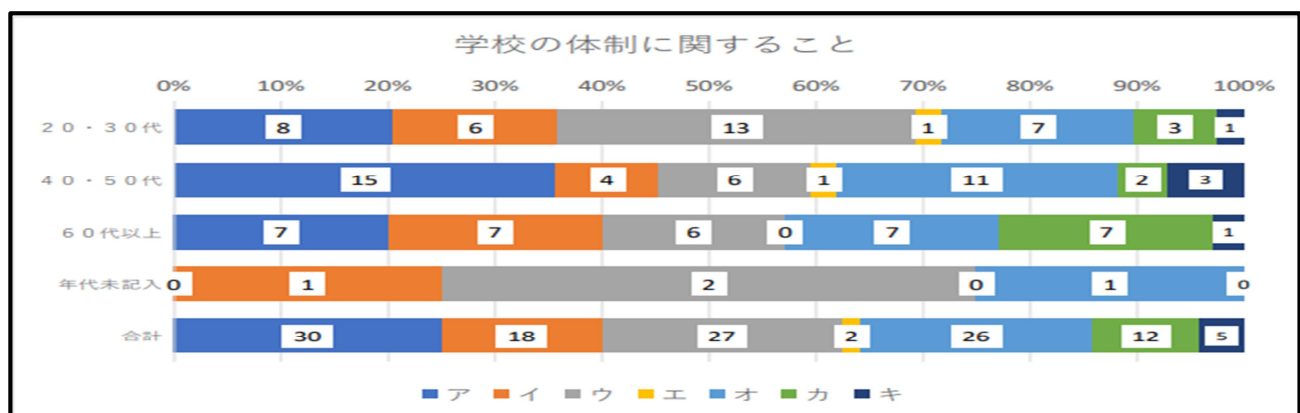
ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校１年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校１年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校３年生からがよい。

エ その他（意見・理由： ）

■全国的には、小学校、中学校の連携をさらに深めて小中を一緒にした小中一貫教育校を設置している市町村もあります。今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。 ※２つまで選んでください。

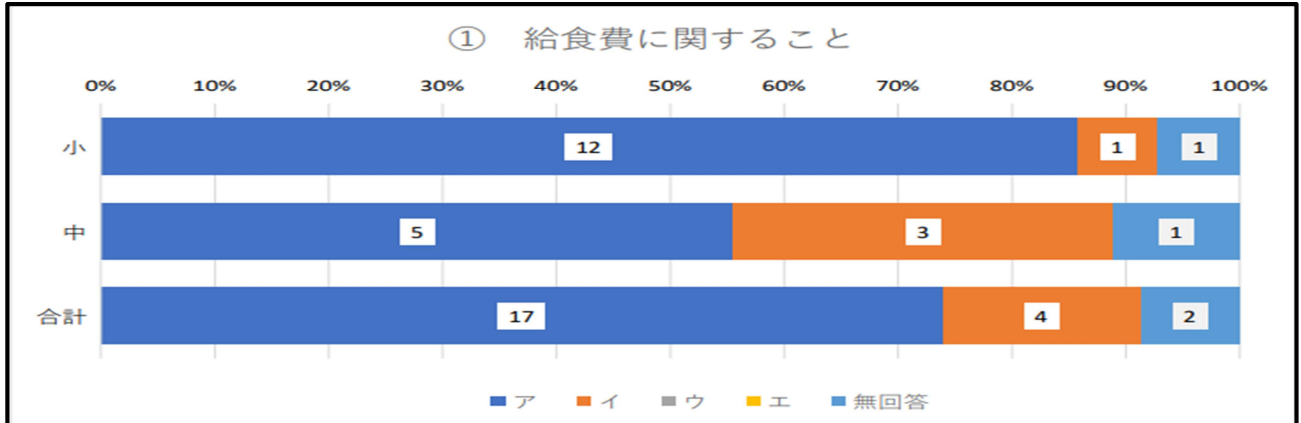


- ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。
- イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。
- ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。
- エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。
- オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。
- カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）
- キ その他の方法

東秩父村立小・中学校のあり方についてのアンケート

＜教職員 小：14名 中：9名 回答23名＞

① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。



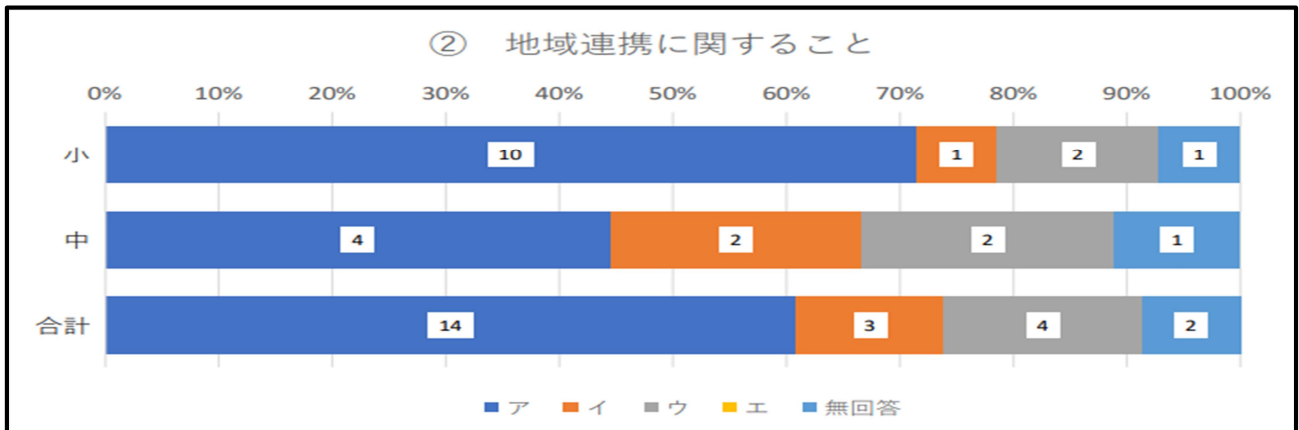
ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他(意見・理由：)

② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



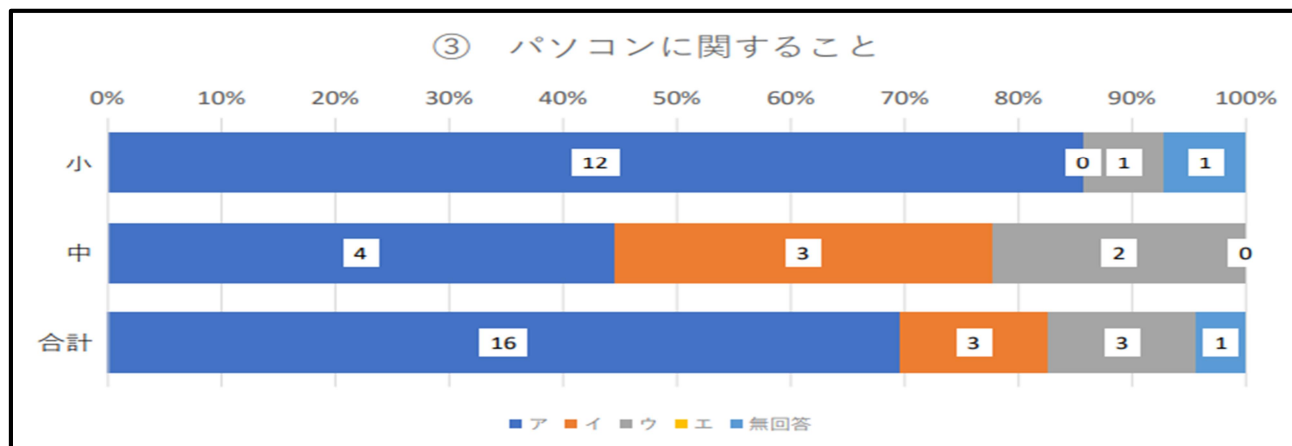
ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めていってほしい。

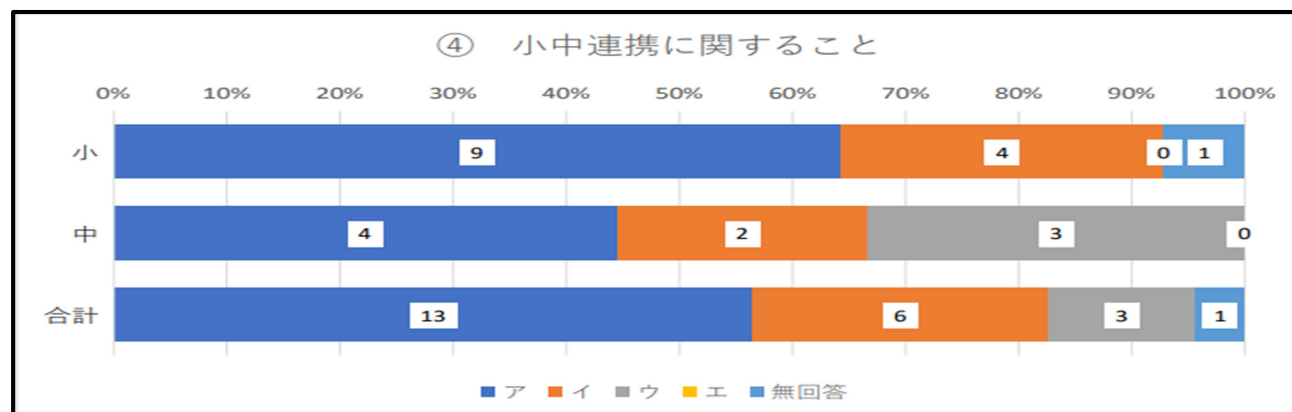
エ その他(意見・理由：)

③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家においてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



ア とてもよい取組なので、継続してほしい。
 イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。
 ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。
 エ その他(意見・理由：)

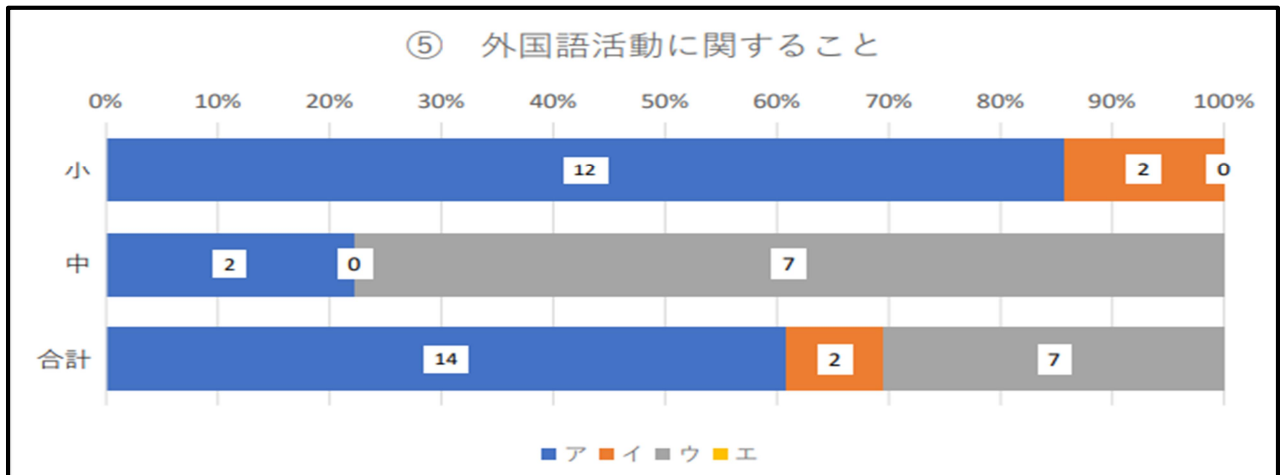
④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携して、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員と一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。
 イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。
 ウ 小学校と中学校は別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

⑤ 東秩父村では、小学校1年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週2日小学校にAET(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。



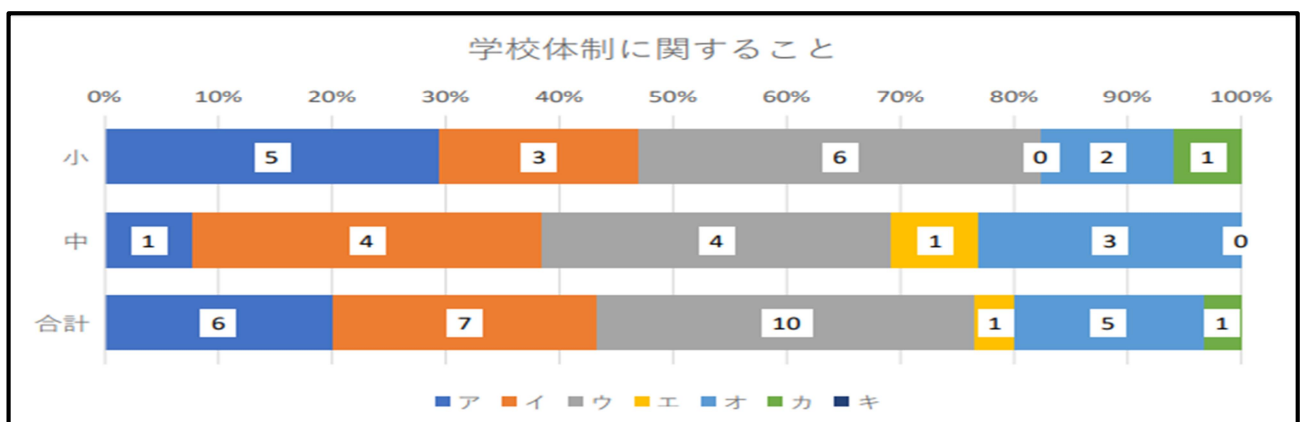
ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校1年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校1年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校3年生からがよい。

エ その他(意見・理由：)

■全国的には、小学校、中学校の連携をさらに深めて小中を一緒にした小中一貫教育校を設置している市町村もあります。今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。 ※2つまで選んでください。



- ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。
- イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。
- ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。
- エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。
- オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。
- カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）
- キ その他の方法

アンケート 集計結果 考察

（66ページ～83ページ）

＜児童・生徒のアンケート回答まとめ＞

1 今の学校での生活について

- ・とても楽しい・まあまあ楽しいという肯定的な回答は小学校では 87.0%、中学校では 97.1%、合計でも 93.1%であり、楽しい学校生活を送っていると考えられる。

2 進んで学習に取り組んでいるか

- ・とても進んで取り組んでいる、まあまあ進んで取り組んでいるという肯定的な回答は小学校では 100.0%、中学校では 80.0%、合計でも 87.9%であり、中学校に入ると、あまり進んで取り組んでいない生徒が増えている。

3 通学時に困っていること

- ・小学校で 2 件、中学校で 2 件困っていることを挙げている。
- ・小学校では、バスに置いて行かれたことやバス内で騒がしいこと。
- ・中学校では、通学路の危険な箇所や坂道の舗装のことなどが挙げている。

4 パソコンに関すること（複数回答）

- ・便利である、役立っている、助かっているという肯定的な回答は小学校では 98.0%、中学校では 94.8%、合計でも 96.1%である反面、費用の面を心配している児童生徒も 4%いる。

5 小さな学校について（複数回答）

- ・人数が少ないとみんなとよく知り合える（ア）と先生が一人一人によく教えてくれる（イ）の合計が、小学校では 69.6%、中学校では 44.3%。
- ・学校でのびのびと過ごせる（ウ）と上級生と下級生とのつながりがよくなる（エ）の合計が小学校では 15.2%、中学校では 34.3%。
- ・人数が少ないことを肯定的に回答している児童生徒は小学校では 84.8%、中学校では 78.6%、合計では 81.0%になっている。
- ・人数が少ないと、上級生とのつながりで、気をつかう（オ）、人数が少ないという人々と知り合えない（キ）、人数が多い方がいろいろな人と助け合ったり、競争

できたりする（ク）、部活動など多くの人と一緒にやる活動ができにくくなる（ケ）など人数が少ないことを否定的に回答している児童生徒は合計で、小学校では15.2%、中学校では21.4%、合計では19.0%になっている。

6 学校の体制について（複数回答）

- ・小中一貫校の方がよいと回答している児童生徒は小学校では70.5%、中学校では84.0%。
- ・小学校では、友達が多くなる（ア）、新たな中学校に行くという不安がなくなる（ウ）の回答が多い。
- ・中学校では、友達が多くなる（ア）、小学校の先生も中学校の先生も一緒にいる（イ）、中学生が小学生の面倒を見る機会が増える（オ）の回答が多い。

<保護者のアンケート回答まとめ>

① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他（意見・理由： _____）

→90%以上の保護者が継続を望んでいる。

② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めていってほしい。

エ その他(意見・理由： _____)

→70%近くの保護者が継続を望んでいる。連携が村民にもわかるように、広報活動も進めてほしいという意見もある。

③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。

エ その他(意見・理由： _____)

→76%の保護者は継続を望んでいる。教科書・ノートが併用できるような授業を進めることを望んでいる保護者もいる。

④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員が一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は、別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

→連携を進めてほしいと望む保護者は90%以上いるが、それぞれの学校ごとに充実させてほしいと考える保護者もいる。

⑤ 東秩父村では、小学校1年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週2日小学校にAET(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校1年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校1年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校3年生からがよい。

エ その他(意見・理由：)

→ほとんどの保護者が今後の継続、充実を望んでいる。

⑥ 今後、東秩父村で英語教育以外にどのような教育活動を推進するとよいと考えますか。お考えを自由にお書きください。(わからない場合は書かなくて結構です)

・ **体力向上を目的とした活動**

・ **子ども数減少により数年後には複式学級になることが予想されます。複式学級になると先生方への負担も大きくなるため、子ども・保護者に混乱のないよう、複式学級経験者を配置されるなどご配慮をお願い致します。**

・推進してもらいたい教育活動の例

- ①自然分野 地域社会や自然の中に出て実際に作ったり調べたりする実践学習や、地域の特性を活かした自然体験
- ②国際分野 英語の時間以外でも年間行事に英語を取り入れるなど日常に英語が溶け込む環境を作り上げることや、日本語で話すレベルと同等の英語力を身に付けることができる教育
- ③伝統分野 伝統文化を6年間にわたって茶道・華道・礼法・着付けなどを学び心の豊かさを育む。
- ④ICT分野 学校生活や授業にデジタル機器が溶け込む形で活用することや、プログラミング教育の充実

- ・質問の意図とズレているかもしれませんが、近隣の町の小学校との交流などもいいかなと思います。私が小学生の頃、小川町の下里分校に遠足で行った思い出があります（私は東小川小学校の生徒でした）。分校の生徒と校庭で遊んだのを覚えています。

槻川小学校はどの学年も少ないので、他校の同い年の子と大勢で遊ぶ機会もあったらしい経験になるのではと思います。

- ・自分で選べる授業をやってほしい。みんなで同じ授業をしてても、その子に合った教育なのか、疑問。自分の興味のある分野を選択できる取組みを増やしてほしい。
- ・インターネットリテラシー教育を検討いただきたいです。
- ・インターネットを活用した国際交流
- ・テーブルマナー等
- ・プログラミングがやりたい(小2)
- ・他の市町村の子供たちとの交流など。
- ・地元のことを知らない児童、生徒が多いように思います。また、村に対する愛着が希薄です。昔、副読本で、ひがしちちぶについて、学びました。新たに作成することは、困難ですが、観光パンフレット等を使用し、社会科として、学習することが良いと思います。
- ・登山、魚釣り、昆虫採集

- ・年々、英会話が必要な世の中になって来ているので、基本的な学力にプラスして勉強をする機会を増やした方が良い。
- ・学力だけでなく、友達、先生、住民とのコミュニケーションに関する、躰、指導を増やす。
- ・保育所、子育て支援センター、小学校、中学校、高齢者施設などが近くにあると思う。交流の場を作り、良い教育の場にもなるのではないかな。

今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。

- ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。
- イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。
- ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。
- エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。
- オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。
- カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）
- キ その他の方法

→ア 施設一体型の小中一貫校、イ 施設分離型の小中一貫校、ウ 現状と同じ小中連携校、オ 他機関との複合併設型の小中学校がほぼ、同数である。

<住民のアンケート回答まとめ>

- ① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。
- ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。
- イ 食費は誰にでも必要なものなので無料ではなく一部保護者負担にすべきだ。
- ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。
- エ その他（意見・理由： _____）

→75%の住民が継続を望んでいる。その反面19%の住民は一部負担や廃止を希望している。

エ その他（意見・理由）

- ・ 5割以下の負担位は必要では
- ・ 給食費無料はありがたいが、一部有料にしてもよいので、メニューの充実を図ってほしい。給食に限らず、保護者としては学校教育のメニューが充実するのであれば、有料の物を増やしてもよいとかがえています。
- ・ 現在、調理員（6人）の所、半年間も1人欠員である。教育委員会に早く増員を望み、児童生徒へおいしい給食を提供していただきたい。
- ・ 給食費を無料にすることで、村の最終的な目的が不明確。Ex.人口増とか
- ・ 継続でよいと思うが、財政負担が大きいなら、一部を保護者に負担してもらった方がよい。
- ・ 選択肢に「給食無料により村の財政負担が大きくなる」旨の表記がありましたが、年間いくらかの説明もなしに軽々に載せる文言でもないのでは。村執行部に他に見直すべき予算があれば、その分で給食費をカバーできるかと。少子化ですから。

② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めてほしい。

エ その他(意見・理由：)

→96%の住民が、継続を望んでいる。連携が村民にもわかるように、広報活動も進めてほしいという意見もある。

エ その他（意見・理由）

- ・地域との連携は良いことだと思います。ただ、こういった取組みが学校教育にどのような影響を与えているのか、教育的考えに基づいて説明する必要があるかと思います。
- ・連携を進めることは大切だと思う。
- ・継続してもよいが、地域の負担が大きくならないようにしてほしい。
- ・この設問でこの選択肢で、なぜ「1つ選んでください」なのでしょう。選択肢の内容の違いがはっきりと分かるような表現がいいのでは。また、①の選択肢に「やめた方がよい」があって②にはない、というのも恣意的な印象になるのでアンケート配布前に文言の精査が必要かと思われます。

③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めてほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにほしい。

エ その他(意見・理由：)

→43%の住民が継続を望んでいる。教科書・ノートが併用できるような授業を進めることを望んでいる住民が48%いる。

エ その他（意見・理由）

- ・タブレット PC をどのくらいの頻度で使用・活用しているか知りたい
- ・オンライン授業について、中学生ともなるとただ授業の動画をオンラインで見せるのではなく、オンライン用の説明資料を別に用意するなど、オンラインならではの授業を行ってほしい。（そうでなければ、録画で充分になってしまう。）
- ・パソコンは必要だと思うが、親の管理は重要
- ・よいことだと思いますが、低学年の児童がランドセルに入れて通学するのはかなり負担になると思います。
- ・とてもよい取組みとまでは思いませんが、継続は必要と思います。デジタル依存による脳の疲労や眼精疲労と有効な情報を効率よく収集できることのバランスをどうとっていくかは大人や責任者が真剣に考えるべき。現実には先生方にもデジタルネイティブ世代が増えていると思いますので、パソコン等をなくしていく方向にはどうやってもならないですね。ウの答えで機種変更に村の費用がかかるといった文言がありますが、これについては「今後、村の子どもたちにどのような教育を行政として施していくのか」という村長や教育長の意志や意欲次第ではないでしょうか。費用をかけずに充実した教育内容を練るのか、必要とあれば費用は惜しまないのか、少子化を食い止めるために教育行政を売りにできるレベルにするのか、そもそも子供が超少ないのに出し惜しみするほど予算をとれないのか、いろいろ考えることは多いと思います。ただ、村長は現在、情報分析能力や考えたり判断したりする力が極めて弱まっているので、教育長に頑張っていただきたい。

④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員が一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は、別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

→連携を進めてほしいと望む住民は90%近くいるが、それぞれの学校ごとに充実させてほしいと考える住民もいる。

エ その他（意見・理由）

- ・小学校と中学校と連携することはよいことだと思います。ただし、中学生はその後の大規模な高校や大学に行くことになることから、外の世界に触れることも重要なので、他の中学校や高校との連携を進めていって欲しい。
- ・アンケート全体で、選択肢の表記に疑問を感じます。
- ・小中一貫校と連携の深まりは直接結びつかない話かと思います。そもそも現在ほぼ小中一貫状態ではありますよね。

⑤ 東秩父村では、小学校1年生から外国語活動・英語教育を実施しています。そのため、週2日小学校にAET(英語指導助手)を派遣しています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なので、今後も現在の取組を継続してほしい。

イ 小学校1年生からでよいが、内容を工夫し、さらに充実させてほしい。

ウ 小学校1年生からでは早すぎるので、学習指導要領に示されているとおり、小学校3年生からがよい。

エ その他（意見・理由：)

→ほとんどの住民が今後の継続、充実を望んでいる。学習指導要領に示されているとおりでもよいとの意見もある。

エ その他（意見・理由）

- ・ 村が現在、何年生から AET の指導を受けてるかわからないが、少数を利点にして、小 1 からでもいいのではないかな。
- ・ 英語教育については、今後も重要になってくると思います。小学校の低学年から、英語がきらいにならないように、物心ついたころから英語が当たり前にあるように英語教育をさらに充実するようにお願いします。
- ・ 成果が見えるように充実させてほしい。発表会など
- ・ 外国人への差別、偏見を無くす事と授業の楽しさを一番の目的でやってほしい（点数などはつけないでほしい）
- ・ 財政負担次第では、学習指導要領通り、小学 3 年生からでよい。
- ・ 幼児期から英語に親しんでいる児童もいれば、入学後もほぼ初めて教科として英語に接する児童もいるので、理解度や興味のレベルもそれぞれ異なる中で、全員にとって意味のある授業にする工夫は必要かと思います。どの教科でもそうですが。

今後、東秩父村で英語教育以外にどのような教育活動を推進するとよいと考えますか。お考えを自由にお書きください。（わからない場合は書かなくて結構です）

- ・ **今のアニメを取り入れた道徳教育**
- ・ **“あいさつ”と“返事”といったコミュニケーションをもっとたいせつにしてほしい。また、東秩父村を大切にしてほしい。”**
- ・ **プログラミング・第 2 外国語・体験型活動・スポーツを特化する**
- ・ **村の歴史、それぞれの地区の特徴をもっと学べるようにしてもらいたい。**
- ・ **自然豊かなこの村の特性を生かして、食べられる野草などの知識などをもっとたくさん教えてあげられたらいいかもしれません**
- ・ **早いうちに英語に触れられる環境にあることはとても恵まれている。**
- ・ **未来の児童生徒が自分の個性を活かし、楽しく学校生活を送れる教育が望ましいと考えます。**
- ・ **パソコンを使って、プログラミング等、社会に出てから役立つことを取り入れてほしい。**

- ・プロの演奏家等、本物に触れる機会を子供たちに与えてほしい。
- ・手話など
- ・情報教育は今後の教育でも重要になってくると思います。また、そういった分野の基礎能力を高めるための算数数学・理科系の科目の充実をお願いします。
- ・保育園、小学校、中学校を1ヶ所に集約、大人の見る目が多くなる。
- ・パソコンプログラミング
- ・子供の数が少ないので、他校の生徒との交流などをもっとしたらどうか。楽しい体験や出会いを作してほしい。
- ・（そもそも回答欄が小さいです）もしも村に小中学校が残り続けるのであれば、それによって移住者を呼び込めるような特色ある教育活動も一案かと思います。校舎のあり方を考える時期かもしれませんが、箱ものにかかる費用を教育内容の充実に振り向けるという手もあるのでは。（というのも東秩父村は箱もの行政における失態が1つ2つではないのでそこに大きな不安があるのも理由のひとつです。）

誰でもある程度就労できた昭和と違い、令和の世で義務教育中に必要なのは、悲しいかな学問に親しみ愉しむといったことよりも、社会人として生き抜く力の醸成になってきていると思います。指導要領に沿った学業のほかに、社会に出られる能力、人間力を養う教育活動ができれば、東秩父村のこどもたちの社会適応能力はすごい、ということになっていくのではないのでしょうか。現在の学校では、社会的建前として、「君たちには無限の可能性がある」と言いながら、小学校のうちから

「興味のある分野」「なりたい職業」を決めさせるという矛盾をはらんだ総合学習が行われていますが、無限の可能性があるんだったら、放っておけ、と思いますし、一時的にせよなりたい職業を決めさせるのであれば、学校が全面バックアップして、その職業につけるよう誘導でもするんかい、とも思います。矛盾のない社会教育として、まず、社会の構造・社会保障の仕組みなど、大人になってみればわかるようなことでも、村から出る前に「社会人の基礎知識」として知っておくことは子どもにとってなんの損もありません。学校の先生はきみたちの人生に何も責任を取ってくれないよ、自己責任なんだよ、という現実に応じた教育が必要でしょう。ただ、学校の先生は職業上、社会的視野が非常に狭い状況で就労されているので、先生では社会科以外の社会そのものを教えていくのは難しいと思います。

しかしながら、分析し、考え、結論を出し、意見を言うことができ、さらには複雑な人間関係や状況に対する判断力を養ってから中学校を卒業すれば、東秩父村の子どもたちが陥りやすい高校ギャップは少なくなる上、その後の進学・就職・日常生活においても有益なのではないでしょうか。

今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。

- ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。
- イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。
- ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。
- エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。
- オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。
- カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）
- キ その他の方法

→ア施設一体型の小中一貫校、ウ現状と同じ小中連携校、オ他機関との複合併設型の小中学校が多く約25%ずつを占めている。次いで、イ施設分離型の小中一貫校を望んでいる。

エ その他（意見・理由）

- ・今ある校舎や体育館、グラウンドを今後も変わらず、そのままを続けてほしい。
- ・将来的にはオを希望しますが、資金や安全な土地の確保など、難しいと思われるので、まずは、アがよいと思う。ただ、あらたな建物でなく。既存の学校を必要であれば、改築していくのが望ましい。
- ・プラス学童も隣接しているとよいと思います。
- ・ア→新校設置 資金がかかる イ→教育課程の編成？内容がよくわからない。近隣の学校と学習状況が変わってくる？ オ→移動が大変 決定した内容によつ

ては転居されてしまう案件も出てくるかもしれない。そのくらい重要なこと。※
当事者の親御さんや子供の意見を十分に聞き、取り入れてあげてください。

- ・本来であれば、移住促進や山村留学など、児童生徒の数を増やす施策を村の最重要なものと位置づけ、小中学校が学力体力だけでなく、多種多様な部活動やクラブ活動を集団で行うことができるようにすることが第一義的ですが、どのような施策をうったとしても児童生徒数が少なくなるようであれば、中学生については小川町その他ある程度の規模を持った中学校に通えるような仕組みを作る。もしくは部活動だけでも他校と一緒にできるようにしてほしい。
- ・状況がよくわからないので、考えがまとまらないし、学校へ行っている孫もいないから何とも言えません。
- ・子供の数も減少していく中で、保育園～中学校までを今の施設を利用し、1ヶ所で集中・集約して合理的に一か所ですべて揃えて運営していけたらムダを省き必要のところへと思います。
- ・新たな施設設置は財政をひっ迫するだけ、さらに少子化が進んだ後の施設の有効活用も難しいので、やめてほしい。万一、遠い将来、小川町等、近隣の小中学校と連携する可能性があるなら、相応の時間的余裕を持ち、住民、職員、議員等、皆が納得できるように話し合いを重ね、途中で話が、振出しに戻ることがないように、計画的に進めてほしい。
- ・複合型の説明はなぜされていないのですか。どれならいい、どれならダメというよりも、まず、あり方検討委員会以外に、村執行部（村長・教育長・教育委員会事務局・企画財政課・なんなら総務課）で、少子高齢化と移住促進と学校関係、予算についてよくよく意見を出し合っていく必要があると思います。縦割り行政はほどほどにし、「自分は意見を言う立場ではない」とか「自分には言えない」とか、子どもっぽいことを言わず。庁内で、縄張りや見栄に関係のない真摯な住民サービスのための話し合いが為されていないことが行政の迷走につながるのでは。このアンケートに関しても、誰の責任でどこまで住民の意見を採用できるのか、単なる参考資料と住民の声を聞きましたというアリバイ作り程度のことで、紙と人件費がもったいないですよ。

その他の方法として、各校舎が老朽化しているのは知っていますが、新たな箱ものを立てる前に考えてほしいのが、小川町の学校に通わせてもらう、すぐにでも学校以外の用途に使えるものにするなど、箱もの経費をいかにかけないかということです。過去「分校では同級生が少ないから引っ越す」「村では～（以下同じ）」というケースを少なからず見てきましたので、校舎が立派かどうかより、情操教育としての義務教育では、それこそある程度の「社会」が作れる状況を望む保護者がいるわけです。少子高齢化の進行により転出がより増えるとすれば、箱ものでどうこうする事態ではありません。校舎をどうするかの前に、村の教育行政はどこまで子どもに責任を持つのかの内容を、大きな課題として突き詰めておく必要があるのでは。最後の一人でも立派な校舎で、というドリームを実現できるほど東秩父村に経済的余裕があるとはだれも言えないでしょう。

＜教職員のアンケート回答まとめ＞

① 東秩父村では現在、学校の給食費を無料にして教育費に関わる保護者負担を軽減していますが、このことについてア～エの中から1つ選んでください。

ア 大変よい取組なのでこれからも継続してほしい。

イ 食費は誰にでも必要なものなので無料でなく一部保護者負担にすべきだ。

ウ 村の財政負担が大きくなるのでやめた方がよい。

エ その他（意見・理由： _____）

→80%以上の教職員が継続を望んでいる。村の財政を考えると、半分ずつ負担するのはどうかという意見もある。

② 学校では、地域の方々の協力を得て、講話や体験活動を行い、地域との連携を図っています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 地域との連携は、よいことなので継続してほしい。

イ 地域との連携が村民にもわかるように、広報誌などに内容を掲載してほしい。

ウ 地域と学校が手を取り合うことが大切なので、さらに連携を進めていってほしい。

エ その他(意見・理由： _____)

→70%近くの教職員が、継続を望んでいる。地域の方の負担にならない程度であることと、話し合いや準備で担任の先生方の負担にならないようにできるといいという意見もある。

③ 国の構想の1つであるパソコンの導入について、東秩父村では全児童・生徒に一人一台のパソコンが使えるようにしています。感染症などで、欠席が続いた場合でも、家にいてオンラインで授業を受けることができます。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア とてもよい取組なので、継続してほしい。

イ パソコンと教科書・ノートが併用できるような授業を進めていってほしい。

ウ 機種変更などで、村の費用がかかると思われるので、ほどほどにしてほしい。

エ その他(意見・理由： _____)

→73%の教職員は継続を望んでいる。

④ ここ数年、小学校と中学校との連携が叫ばれています。東秩父村でも小学校と中学校とが連携していて、小中合同で学校行事を行ったり、小中の教職員と一緒に研修を行ったりしています。このことについて、ア～エの中から1つ選んでください。

ア 東秩父村では、小学校1校・中学校1校なので、小中学校が連携することはよいことなので、継続してほしい。

イ 近隣の市町では、小学校と中学校が一緒になった小中一貫教育校が開校しているので、東秩父村でもさらに小中学校の連携が深まるようにしてほしい。

ウ 小学校と中学校は、別々の計画があるので、それぞれの学校ごとに充実させてほしい。

エ その他(意見・理由：)

→連携を進めてほしいと望む教職員は86%以上いる。

⑤ 今後、東秩父村で英語教育以外にどのような教育活動を推進するとよいと考えますか。お考えを自由にお書きください。(わからない場合は書かなくて結構です)

- ・ 村内に小学校1校、中学校1校しかなく、通学区域が全村に及ぶので、児童・生徒の登下校が少しでも安全かつ便利になればと思います。
- ・ 小中一貫教育
- ・ できるだけ多くの地域からの移住者を増やし、多国籍の文化が学べると良い
- ・ 地域学

今後の村立小・中学校のあり方について以下の方法のどれが適切と考えるか、お考えをお聞かせください。

- ア 現在の小学校、中学校の施設を一緒にした新たな施設一体型の小中一貫教育校を設置して教育活動を推進する。
- イ 現在の小学校、中学校の施設をそのまま活用するが、9年間の教育課程を編成して施設分離型の小中一貫教育校を推進する。
- ウ 現在の小学校、中学校はそのままにし、現在行っているように小学校、中学校が連携して教育活動を推進していく小中連携校として教育活動を推進する。
- エ 特に小・中の連携は考えず、小学校、中学校それぞれに独立して教育活動を推進する。
- オ 小学校、中学校に保育園や子育て支援センター、保健センター、公民館などの機関を併設する形で複合型小学校、中学校を設置し、児童生徒が多くの人と関わる機会を持てるような教育活動を推進する。
- カ わからない（状況がよくわからないので考えがまとまらない）
- キ その他の方法

→ウ 現状と同じ小中連携校が多く、イ 施設分離型の小中一貫教育校、ア 施設一体型の小中一貫教育校、オ他機関との複合併設型の小中学校の順である。一貫校が望ましいが、予算面を心配している意見もある。

＜東秩父村立小・中学校あり方検討委員会答申書＞
東秩父村立小中学校の適正なあり方について（答申）

初 版：2025 年 3 月発行（令和 7 年 2 月教育委員会議決）

発行・編集：東秩父村立小・中学校あり方検討委員会

：埼玉県東秩父村（教育委員会）

〒355-0393

埼玉県秩父郡東秩父村大字御堂 634 番地

Tel：0493-82-1230（教育委員会直通）

Fax：0493-82-1562